開設　民國七年、當商務會は光緒二十四年東支鐵道敷設と同時に公議會を開設し民國七年商會と改稱す。

會長　宋岐山

副會長　趙輔臣

會董（議員）　十九名

會員　三十七名

會費　毎月頭等大洋一四、〇〇　二等一一、〇〇　三等八、〇〇　四等四、〇〇

第七款　商店

第一項　日本人職業別表。（大正十五十二月現在）

營業科目	屋號	經營者
醫師	赤誠堂醫院	福井吉三
藥種商	回生堂藥房	河野秀雄
時計商	下川時計店	下川靜一
理髮	—	南里實次
洗濯	—	山口甚三郎
貿易商	日華合資會社	田中伊三郎
仝	高岡號	下谷龜藏
材木商及雜穀	—	上谷繁太郎
質	日東當	藤井イネ
新聞通信	泰東日報分館	吉村智正
料理店	朝日樓	降旗ミツノ

第二項　支那側商店（一流の商店のみ）

營業科目	商號	資本金	執事人
雜貨	同盛仁大洋	二〇、〇〇〇元	張吉堂
仝	豐泰昌	三〇、〇〇〇	胡利堂
仝	增盛泰	二〇、〇〇〇	邱福亭
仝	恒順茂	二〇、〇〇〇	許典鰲
仝	豐義號	三〇、〇〇〇	王芝甫

雜貨	東成茂大洋	五、〇〇〇元	王少武
〃	東興祥	一五、〇〇〇	孫芝甫
〃	新德號	五、〇〇〇	孫祥臣
〃	悅昌恒	五、〇〇〇	王少臣
〃	義興泰	一〇、〇〇〇	潘明齋
〃	源盛隆	五、〇〇〇	邱玉亭
〃	中和棧	八、〇〇〇	張心齋
〃	福源號	八、〇〇〇	孟尙赤
〃	裕興東	五、〇〇〇	劉雲山
〃	復盛祥	五、〇〇〇	張何亭
〃	協成仁	一五、〇〇〇	—
〃	恒盛永	五、〇〇〇	趙輔臣
〃	裕大厚	八、〇〇〇	宋岐山
〃	福豐恒	一五、〇〇〇	孟楫五
滙兌莊	福順德（哈爾濱に本店を有す）		孫福臣

第七章　寧古塔

第一節　地域

寧古塔は吉林省の畧中央に位し東經一二九度四四分、北緯四四度二四分の地點にして寧安縣々城の所在地である。華人は普通寧安、又は新街と稱してゐる。

	哩	支里
至海林	一五	六〇
至東京城	二三	九〇
至額穆	九六	三八四
至吉林	二一〇	六三五
至三岔口	一五六、四	
至三姓	一五三	
至牡丹江驛	二〇	

而して四方は巒岳を以て圍繞されたる一大盆地を形成し地味肥沃にして古來幾多の天產物に富裕である。

大豆小麥等の穀類の集散夥しき數に上り材木の產亦少からず、又野に人參あり山に貂皮を產し、湄沱

湖には鯽を出し、海林河には眞珠を產す。就中人參は明淸時代には開原、撫順の市價を左右し鯽は畏くも帝王の食膳に上り眞珠は皇妃の耳飾りとして献上されたりと傳ふ。

又寧古塔の東北方約八支里の地に愛親窪子村がある。覺羅村とも云ひ覺羅城の城趾が現存する之れ卽ち淸の始祖の發祥地である。淸末に至り土人地を掘りて古墳を發見した。埋沒せる古墳は何人のものなるか知るに由なきも滿洲源流考には寧古塔に覺羅城ありと云ひ、亦、省志には覺羅堡城は城東三里、瑚爾哈河北岸にあり周圍五十六步城門は唯一つありとの記事がある。

第二節　沿革

寧古塔の沿革は頗る古く東北部滿洲に於ける最古の文化の中心地點である。

當地方最初の住民は三皇時代息愼族の蟠居に始まり降て周時代には肅愼族の生活を見、更に魏隨の時代には忽吉（ツングース）靺鞨の移住あり次で建洲女眞、更に高句麗、新羅人姿を現はした。

就中今より約一、二〇〇年前渤海國の建設は寧古塔地方に歷史的事實を確然と今日に傳ふるに至つた。

渤海は靺鞨七部の一なる粟末　鞨の出でにして一四世二一〇年間を傳へ鏡泊湖畔當時の忽汗湖の附近なる忽汗城に都を奠めた、現在の東京城乃ち之である。

渤海國の始祖を大作榮と稱し、父を乞々仲象と呼んだ。元と營洲なる唐の都督の部下として一家眷族を引具して移住し、契丹の酋長李盡忠が都督に謀反せる時共に敗れて東奔し、天門嶺に據り次いで唐の李

階固の襲擊を退けて以來、松花江、輝發江の畔なる東牟山麓に築寨し、自ら震國（東國の意）と號し曩に唐の爲めに席捲せられたる高句麗の殘黨、並に同族を糾合して建國せるに始まる。

而して渤海國の全盛時代に於ける國土の領域は、龍洲、渤洲及湖洲の三洲（現在の奉天省、遼東以北吉、黑兩省及朝鮮沿海洲の各一部）に跨り之を行政上五京、一四府、六六洲、一寨、一三八縣に區劃し戶數一〇萬戶を數へた。五京とは東京（ニコリスク附近）西京（帽兒山附近）南京（局子街附近）中京（官衙附近）及上京（東京城附近）である。

如斯暫時燦然たる文化の下に榮へたる渤海は今より九九六年前、遼（契丹）の太祖一四年に亡ぼされたのである。

渤海滅亡當時の寧古塔は遼の天顯七年忽汗城を圍みて之を降し名を東丹と改め、忽汗城を天福と名け耶律培を冊立して王となした、其の後、耶律培去りて耶律安圖東丹に王となり、後年梁水に民と共に遷つた。遼王怒りて之を破り渤海の殘黨數萬戶高句麗に走つた。東丹滅亡後の寧古塔は所謂烏舍部に屬し遼の威令外にあつたといふ。

降つて、元は寧古塔地方を治海蘭府の管轄內に包含し、其の行政を統べ明代に至つては當地方を治むるに奴兒干都指揮使を以てし寧古塔に奴兒干都司及堅河等の衛を置き、後窩集部の寧古塔等路を以て管轄した。永樂元年窩集衛を設け次て窩集左、右及前後衛を增設し同三年

堅河衛の開設を魁に、二七衛（永樂一三年まで）二一衛（正統元年以後）計四九衛、其の下に千戸所及百戸所を開設した。

其後清朝三代の世祖は順治元年六月、多年憧憬せる北京に入關し、滿洲の五王八旗二十三萬の壯丁を引具して遷都し順治十年寧古塔副都統の設置となつた。續いて康熙元年當地方の守備手薄なるを慮り內大臣何洛會をして八旗右翼の兵を統帥して鎭守奉天等處將軍及鎭守寧古塔等處將軍を駐在せしめ、同一〇年前者を盛京將軍と改め、後者は同一〇年より一五年にかけ吉林に移駐し乾隆二二年に至るまで（六六年間）寧古塔將軍の舊稱を有し其後吉林將軍と改稱した。

寧古塔は康熙五年十二月海林の西方舊街より移轉し來れる城寨にして、未だ二五〇年を出でない寧古塔初代の將軍巴海の築城に係る。

之れ即ち現在地方人が寧古塔を稱して新街と呼ぶ所以である。

而して寧古塔昂邦章京は沙爾虎大一代九年にして廢絕し寧古塔將軍は初代巴海以後三四代九五年。同副統は初代海塔以後七三代二五五年の久しきに及んだ。

其の後光緒二九年六月、綏芬廳を置き宣統元年寧古塔副都統として東南路兵備道尹を兼任せしめ宣統二年寧安府を設置し、民國元年寧安縣と改稱して今日に及んだのである。

註、其他詳細は次の刊行物を參照あり度し。

一　哈爾賓資料第四十一號　東北部滿洲之沿革（哈爾濱調査課）
哈爾小冊子　寧安縣事情　仝
經濟資料　日滿關係の過去、現在、將來（東亞經濟調査局）

第三節　人口

イ、總戸口

寧安縣城の戸口は支那側警察の調に依れば次の如くである。

國籍	民國十二年				
	宣統三年				
	人口	戸數	男	女	計
日本人					
支那人	二八、三一九	三、五九八	二、一四、九四八	一七、八九四	一九、二二、八四二
計					

ロ、日鮮人口戸

尙最近に於ける日鮮人戸口別の內譯は次の如くである。（大正十五年六月現在）

	戸數	男	女	計
內地人	三	二	一一	一四
朝鮮人	一〇五	二五〇	二三六	四八六

第四節　官公衙

寧古塔に於ける官公衙の主なるものは。

縣公署、同司法署、商務會、農務會、郵便局、電報局、電話局、財務處、中學校一、國民學校五、第二十一旅團司令部、保衛團總隊、警察總本處、稅捐局

第五節　金融並通貨說

第一款　概

寧古培に於ける金融機關としては次の如きものがある。

中國銀行　東三省銀號　吉林永衡官銀號　滙合福

東支鐵道東部沿線に於て右の如く金融機關を備へたるは其の例を見ず、特別の現象と云ふ可きであるが其の原因としては。

一、物產。東支東部沿線各驛に於ては物產比較的少く、余り重大なる必要を感せざるに對し寧古塔に於ては穀物、材木等を始め其他の物產多く然も鐵道沿線各驛の如く鐵道に依つて直接哈爾濱、浦塩等に結び付けらるゝ事不可能なるが爲めである。

二、交通狀態。上述の如く東支沿線に於て、一面坡、海林等は穀物、材木等の物產比較的多きも直接鐵道に依つて哈爾濱、浦塩等に結び付けらるゝ代金決濟等も容易に解決せらるゝも寧古塔は鐵道より離るゝ事十五哩にして交通不便なれば當然金融機關は必要とする。

第二款　金融機關

東三省官銀號支店

開設　民國十二年九月

營業科目　一般銀行業務、主として貸出し

經理　文祥、（奉天瀋陽縣人）

爲替取組先　哈爾濱、吉林、黑河、滿洲里、齊々哈爾、望奎、佳木斯、綏化、海拉爾、呼蘭、長春、雙城堡、開原、遼陽、公主嶺、營口、四平街、安東、奉天、延吉、大連、天津濟南、青島、上海、煙台

吉林永衡官銀號

開設　宣統元年
經理　孫錫藩
爲替取組先　吉林、哈爾濱、長春、延吉

中國銀行、及滙合福に就ては其内容不明である。

其他當舗は約十五軒あり、資本金合計銀資本六萬元、並に吉林官帖三一五萬吊に達する。表示すれば次の如くである。

商號	資本金	資本主	經理	所在地
德祥當	一〇、〇〇〇元	呂晉榮、謝雲祥	曲立泰	南關外路南
會民當	一〇、〇〇〇元	曲立泰、孫彥卿、董鏡茹	曲立泰	南關外路西
恒吉當	四〇〇、〇〇〇吊	曲立泰、盛萬祥	楊有光	仝
天增當	一〇、〇〇〇元	楊再山	王化南	東門外路西
祥順當	五、〇〇〇元	王化南、于其祥	王紛秋	南關外路西
源合當	三五〇、〇〇〇吊	徐秩民	張錫九	西關外路南
福興當	六〇〇、〇〇〇吊	源興順	郁輔臣	南關外路南
興隆當	三〇〇、〇〇〇吊	王殿福	韓香亭	南關外路北
福源當	六〇〇、〇〇〇吊	徐滿貴	馮錦堂	西關外路北
和成當	五、〇〇〇元	關蘊祥、楊曉嵐	張振玉	仝
功和當	五、〇〇〇元	樸厚堂	耿忠和	西門裡路北
東興當	五、〇〇〇元	趙殿魁	王慶禮	東關外路東
裕發當	五、〇〇〇元	王秀峯	楊萬餘	東大街路南
大德當	九〇〇、〇〇〇吊	孟富德	郭維翰	東大街路北
滙發當	五、〇〇〇元	昇春堂	李文華	東大街路南

第三款　貨幣

現在寧古塔を中心として寧安縣地方に於ける流通貨幣としては吉林永衡官帖、同小洋票、同大洋票、銅國幣、銅幣、銅制錢、東三省銀行兌換劵、中國銀行兌換劵交通銀行兌換劵、廣信公司兌換劵、邊業銀行兌換劵

（註）各兌換劵は凡て哈爾濱大洋票である。

第六節　工業

寧古塔は哈爾濱等の如き大市場に離れてゐる事、原料豊富水質良好、市場比較的大なる事等に依り交

通不便なる僻陬の地なる割合に比較的工業の發達見る可きものがある。主なるものを擧ぐれば。

製粉工場　三（新式機械製粉）

電燈會社　一

燒鍋　一〇（內大規模なるもの四）

油坊　三三（何れも小規模のもののみ）

第一款　製粉工場

イ、新華両合公司（新式機械製粉）

資本金　五〇、〇〇〇元

資本主　孫彥卿（無限責任）

其他　有限責任者三十七名

生產能力　一日麥粉（七〇〇布度）

總經理　孫彥卿

總司理　俎有華

設立　（營業開始）民國二年十二月

所在地　縣城南沿岸

沿革　本工場は民國元年資本金二千五百元にて開設し、民國十年末增資して今日に至る。

ロ、增新公司（新式製粉）

資本金　三〇〇、〇〇〇元

資本主　增興隆（雙城子）

經理　楊志潔、李耀東

生產能力　一日麥粉（一、八〇〇布度）

所在地　縣城後

ハ、裕東股份有限公司（機械製粉）

資本金　三二〇、〇〇〇元

資本主　新華両合公司、孫彥鄉、甘士慶

役員　總董、（取締役社長）孫彥鄉

總經理、（總支配人）甘士慶

副經理、（副支配人）張毓華

設立　民國十二年十二月

所在地　縣城東江岸

生産能力　一日麥粉千二百布度。

右各工場消費の原料は當地方生産の小麥にして凶年には哈爾濱より輸入する。而して製品販路としては現在當市に供給せる外、東京城、及其他地方一帶並に東支鐵道東部沿線一面坡以東各驛一帶に供給する。

第二款　電燈會社

名稱　寧安電燈廠

資本金　五〇、〇〇〇元

資本主　張學良

約束燈　約二、〇〇〇個

經理　趙錫齡

開設　民國十年三月

料金　一六燭　大洋一、四〇

機械　ダイナモ二〇キロワット　一台　ロコモビル（原動機）一台

本電燈會社は民國十年三月春發合油房工場に於て自家用として設置し過剰電流を一般市民に供給せるものであが民國十四年秋郭松齡の反亂後、郭松齡の出資會社なるを以て奉天系の沒收する處となり、油坊を閉鎖し純然たる官營となつたのである。

第三款　燒鍋

寧古塔市内外を通じ（附屬部落を含み）十數個所の燒鍋あるも内規模の大なるものは寧古塔市街にのみに四個所ある。

イ、義發源燒鍋

資本金　一〇、〇〇〇元

資本主　李廣謙、朱義盛、王蔭棠

經理　朱義盛

所在地　縣城北門外

ロ、和源永燒鍋

資本金　一二〇、〇〇〇吊

資本主　胡桐鄉、徐鑑如、關蘊祥

經理　杜瑞

所在地　縣城北門外

ハ、大德永燒鍋

資本金　二、〇〇〇、〇〇〇吊

資本主　孟富德

經理　杜寛城

所在地　縣城東門外

ニ、元和盛燒鍋

資本金　二五、〇〇〇元

資本主　馬喜貴、馬喜財、

經理　馬喜財

所在地　縣城東門外

第四款　油坊

油坊としては約二十軒あるも何れも小資本にして小規模の土式手締法に依るものゝみである。從つて土地の需要を充すに足らず年々少からぬ豆油が海林經由哈市より輸入せらる。これは燃料の不足と豆粕の搬出不便なるが爲めである。

第七節　商業

第一款　商務會

寧安縣商會

會長董鏡茹

副會長孫福亭

會董(議員)　二十名

會員　三百名

開設宣統元年

役員任期　二ヶ年

第二款　會社及商店

會社及商店の主なるものは次の如くである。

店名	資本金	資本主	經理	所在地
志誠林業公司	一五〇、〇〇〇元	何紫哉、田象乾、徐程九、王勳卿	王勳卿	南關外路東

森茂林業公司	五〇、〇〇〇	李佐堀、傅鶴年 王勳卿、外二名	李佐堀	南關外路西
裕寧林業公司	？	張宗昌	何文綺	
東北墾牧公司（水田）	三〇、〇〇〇	張學良	王庚新	西關外路北

糧棧としては約二十軒あり其の主なるものを示せば次の如くである。

營業科目	店名	資本金	資本主	經理	所在地
糧棧	公益合	六、〇〇〇元	孫彥卿	孫彥卿	西南關
〃	會和福	八〇〇、〇〇〇吊	葛光遠	何景夷	西門裡路南
〃	合發財	三〇、〇〇〇元	〃	劉西川	城後
〃	義合興	一〇、〇〇〇元	〃	〃	〃
〃	福興棧	一〇、〇〇〇元	〃	〃	西南關
〃	源興順	一〇、〇〇〇元	〃	〃	〃
〃	福順棧	一〇、〇〇〇元	〃	〃	〃
〃	世聚興	一〇、〇〇〇元	〃	〃	〃
〃	利成公	一〇、〇〇〇元	〃	〃	東門裡
糧棧	同和永	一〇、〇〇〇元	〃	〃	東大街

又一流雜貨店中の主なるものには次の如きものがある。

商號	資本金	資本主	經理	所在地
慶昇福	〃	〃	張鶴	東大街路南
春發恒	一〇、〇〇〇元	張駿業	李廣儒	北門裡路西
恒盛永	〃	〃	李永順	南大街路南

寧古塔に於ける商業取引の資本金總額は約五〇〇萬元と稱せられ輸出入貨物の總數量は一ヶ年約三百萬乃至五百萬布度である。何れも海林並に牡丹江兩驛を經由して輸出入せらるゝが其の主なる貨物の數量は別項の如くである。

第三欵　日本人職業別表

科目	屋號	經營者
醫師	小栗醫院	小栗玄僊
料理	松乃家	光友ヤス
材木	〃	横地信果

因に大正三、四年頃は、王子製紙、東亞煙草出張員等を始めとして其他之に附隨したる、雜貨店、寫眞業、料理店等あり、就中料理店等の如きは七軒の多きに上り人口約百三十名を數へたるも戰後の不況の爲め王子製紙を始め其他の引揚となり上記の如く減少するに至つた。

第四款　輸出貨物

寧古塔主要輸出貨物數量（單位布度）

貨物＼年度	民國二年	三年	四年	九年	一〇年	一一年	一二年	一三年
木材	三九一、〇七九	二五七、四九八	一九八、〇二六	五、七、八六二	六七二、〇七二	一、一七〇、五七六	一、六三六、七一〇	二、一三六、九六四
穀物	二、六〇六、七二九	一、三六五、八八七	一、四九〇、七八四	一、一三七、九四七	二、一〇九、二〇二	一、九八二、〇四六	二、八七四、一九三	三、三五一、八三九
野菜及食料品	三、一八九	一、二七五	五、九五〇	四、一一四	二四、九三一	七三、七四二	三九、六三四	二三、八一三
計	三、〇五〇、九九七	一、六二四、七六〇	一、九四、八七〇	三、六五九、九九二	二、八〇六、二〇六	三、一三一、三六三	四、五四六、五三六	五、六二一、六六一

同輸入貨物數量表（單位布度）

品名＼年度	民國二年	三年	四年	九年	一〇年	一一年	一二年	一三年
石油	三〇、四四二	一四、九一〇	二四、六二二	一六、七七四	七、三八六	一四、二七五	二二、一三五	一八、九九二
種子油	七、八九八	五、六三三	三九六	一八九	一、二三二	七、六一六	四、七七七	二、六二四
織物	三〇、八四〇	二〇、一四〇	一九、九四〇	二一、四七八	二八、六七五	二一、五三三	三〇、七八〇	二六、三四一
砂糖	一六、四七一	一六、五六〇	二一、九六三	八、六二四	八、三四八	一一、六六一	一五、六五九	一七、八七五
鹽	一三、七三三	一六、一二七	三五、三六六	四八、〇一三	一〇一、四八八	一〇九、七五三	一五二、九七一	八八、四〇四
綿花	三、二一二	一、八八	四、九九五	八、五〇	八、四七一	五、八三七	七、一七九	五、六一〇
金物	一七、三五七	五、九八一	三、三八七	二〇、四四七	五、五六八	三、六七三	二、六六六	九、四八四
烟草	五、五一三	六、三九五	六、三八五	八、三七八	七、一四九	六、九四五	一〇、七〇七	八、七一〇
藥品	一〇、三五〇	四、一八七	四、三〇八	一三、四八一	三、九一六	四、六七八	六、五七四	八、五七六
麻袋	一八、七九七	五、七八一	一三、八七二	二七、八八五	一七、九三六	二五、七五八	三四、七二二	四一、八〇六
石炭	四〇、〇五〇	一〇、六二六	二、八六七	—	三、九二二	七、七六七	一三、六九一	四、九〇〇
計	二七八、八〇七	二六二、二六八	一三八、〇八二	一六三、二八六	一七六、一二〇	三〇一、〇一三	二二〇、九三二	二三五、〇〇三

前表に於て明らかなる如く當地に於ける輸出貨物の大宗は材木、及穀類であるが、其他之に次では蒜茸、木くらげ、葉煙草、藥材、毛皮等である。

材木。寧古塔に出廻る材木には既に定評あり冬期哈爾濱、海林等より斯業者の出張するもの少くない、而て當地よりは夏期筏にて牡丹江を流し牡丹江驛にて陸揚せられ一部か哈爾濱に向けらるゝ外多くは浦塩に向けらる。

穀類。輸出穀類の大宗は大豆であるが之に次では小麥、麥粉、高粱、粟及其他である、其の一部が夏季小舟にて牡丹江を下り牡丹江驛に荷揚げせらるゝ外は皆冬季馬車輸送に依るのである。

其の數量を示せば、民國十三年度に於て（單位布度）

	大豆	小麥	麥粉	其他	計
海林	一、五〇一、〇六八	二〇、六二七	八二、八〇一	一、六〇、八五五	一、七六九、三二二
牡丹江	一、二五二、四三一	五六、八〇〇	四一、一九〇	二、二一、九七四	一、五六六、三〇四
其他	九、五四九	—	三、八七	七、四四八	二〇、一八四
計	二、六四〇、〇六八	七七、四二七	九〇、〇九七	四二〇、一八七	三、三五一、八二九

（東支鐵道調査に依る）

其他寧古塔には現在約五百名の鮮人ありて多くは水田經營に從事し數百天地の耕地より可成りの米を生産するも目下の處は皆地方にて消費せらるゝが元來牡丹江流域には水田としての可耕未墾地約五百萬天地と稱せられ居れば、將來囑目するに足るものがある。

葉煙草。古來當地方の煙草は吉林煙草乃至南湖頭煙草の名を以て知られ清朝時代には貢物として北京に献上されたものである。

爾來時代の推移と交通の不便等に依り漸次衰微を來せるも元來地味肥沃にして理想的の煙草栽培地なれば、將來鐵道の開通等交通輸送の發達と相俟つて必ず見る可きものがあらう。

第五　欵　輸入貨物

當地に於ける輸入貨物として主なるものは石油、織物類、塩、麻袋等にして豆油、砂糖、棉花、金物類、煙草、食料雜貨、石炭等が之に次ぎ、其他、燐寸、陶磁器、硝子製品、紙類、茶、干果及生果、蠟燭、及其他日用諸雜貨類が輸入せられる。

石油。美孚及亞細亞の二種であつて各々代理店を置き地方一帶に供給してゐるが最近勞農ロシヤの石油シンヂゲート公司が進出せる模樣である。

織物類。毛織物としては極めて少量であるが、英國製品及チエッコスロバキヤ製品等であつて全部哈爾濱より仕入れらる。又絹織物は殆んど全部が南支製品にして凡て小包郵便により直接南支、上海方面より輸入する外哈爾濱より仕入れらる。綿織物は大部分日本製品であつて其の一部が綏芬河、日商高岡號扱にて浦塩經由に依るものゝ外は凡て哈爾濱乃至奉天、營口等より仕入れらる。

塩。官塩局の專賣品に係り南滿より哈爾濱經由にて輸入せらる。

麻袋。特産物輸出上必要欠く可からざるものであつて大部分は哈爾濱にて仕入れられ其他一部長春、奉天、營口等より輸入せらる。

豆油。當地の油坊に於て可成りの生産を見るも何れも小規模のものゝみなれば地方の需要を充すに足らず、哈市より輸入せらる。

砂糖。戰前は浦塩經由にて輸入されてゐたが現在は全然哈爾濱經由である。且つ直接ジャワ乃至神戸等より輸入するものなく皆哈市の問屋を經由する。

棉花。一部分綏芬河經由に依る外皆哈爾濱乃至營口、長春等より輸入せらる。

金物類。鞏子（農具）及鐵鍋等を始めとして釘、鐵線及其他鐵器具類に至るまで尠からぬ金額に達する。獨逸品にはアルミ製品並に建築用品あり、英米品としては鐵釘、鐵線等あり、日本品としては錠前及物等ある又支那製の農具等ありて各國品の混戰狀態にある。

煙草。英美烟公司、及南洋兄弟烟公司が出張所を設けて賣行をみつゝある外ロパート、及秋林の製品が相當の賣行を示してゐる。

石炭。交通の不便なる爲め運賃嵩み一般市中にては需要せられず、僅かに製粉會社及電燈會社にて使用するに過ぎずして其の使用量一ヶ年一萬布度に充たず、凡て穆稜炭及スーチャン炭である。

其他一般諸雜貨類を含み當地に輸入せらるゝ商品に對する日本商品の地位は約五割と稱せられ首位を占めてゐる。其の主なるものは次の如くである。

綿織物類（粗布、大尺布、綆紗等）石鹼、釦、靴墨、琺瑯鐵器、陶磁器、鏡、魔法瓶、味の素、仁丹、硝子製品、皮革製品、玩具類

而して之等は其の一部が浦塩經由に依る外は皆哈爾濱經由である。

註、浦塩經由輸入商品に就ては綏芬河商業部の參照。

第八章　東京城

第一節　地域並に沿革

東京城は寧古塔の西南九〇支里（約二〇哩）の地點に位し東京城平野の最北端に當り西北には牡丹江を繞らし四圍五〇支里に亘る舊渤海國の土牆を以て環らさる。東京城は都市と稱するよりも寧ろ現今では村邑と稱するを妥當とす可く寧古塔以南に於ける同縣最大の村邑として重要視されてゐる。

晴天の日は西南の遠方に鏡泊湖周圍の群山並に老松嶺を望み得る。

東京城の沿革は頗る古く約五千年の歷史を有し支那歷代の故地なりと傳へてゐる。遠くは三皇堯舜の時代に於て息愼族の蟠居するあり續いて夏商（殷）周三代の頃には肅愼、乃至は稷愼と變り降つて魏隨には忽吉（ソングース）靺鞨族の擡頭となり或は建洲、女眞、高句麗、新羅入等の興亡の後を受けて今日に及んだのであるが就中今を去る千二百年の昔靺鞨族の一部なる渤海國の建設は王城の寶都となつて其の城趾を今日に傳へてゐる。今尙歷然として殘されてゐる處の四圍五〇支里に及ぶ方形の土城は卽ち之である。

斯くて一四世二一〇年間を傳へたる渤海國は契丹國（遼）の太祖一四年に亡ぼされ住民の退散となつ

たが元來當地方は氣候溫和、地味肥沃にして農耕に適し人參、貂皮の產ある等諸物資に富むを以て漸次土民の移住を見、現在約八百戶、人口約五千を算する一大村邑となるに至つた。

註、東京城の歷史は寧古塔の沿革と相終始するものあり、寧古塔の沿革を參照あり度く尙詳細に亘つては別に哈調資料第四十一號「東北部滿洲之沿革」を參照あり度し。

東京城市街は寧ろ市街と稱するよりも村邑と稱するを妥當とす可き一部落に過ぎないが、渤海國の城趾は四周五十支里に余る實に尨大なる方形の土城を繞らし、城內中央の北部には宮城の城趾あり、其他東西南北に通ずる土牆乃至は街路の跡歷然として千二百年後の今日猶且つ存し當時の建築用に供せられたる石材は隨所に堆積し以て渤海國か當時如何に威を宇內に振ひしかを想像するに難からざるものがある。

然るに今や渤海國の滅亡と同時に住民は退散し城趾は農耕に任せ建築物は取り片付けられ隨所に石材の堆積點在し只城趾の中央部に數百戶の東京城鎭の部落ある外は農家の點在するを見るのみである。隨つて昔を尋ね古を偲ぶに足るの歷史的の土地ではあるが商工業の殷盛等は(少くとも目下の狀態は)思もよらず、活氣を欠きたる閑靜なる土地である。

第二節　官　公　衙

東京城に於ける官公衙としては次の如きものである。

寧安縣第三警察分處、騎兵團部、小學校二、東京城商會、東京城農會、稅捐局、財務處、郵政局

第三節　戶口數（民國十五年十二月現在）

東京城に於ける戶口數は民國十五年十二月支那警察分署の調べに依れば次の如くである。

戶數	七四八戶		
人口	男　二、九二三	女　二、〇五一	計　四、九七四

第四節　商工業一般

第一款　概　說

現在の東京城は一村邑としての價値あるに過ぎざれば商工業としては別に刮目に價するものなく、唯稍大なるものとしては、燒鍋四、當舖三、糧棧二、各種雜貨商店四六を數ふるに過ぎない。

燒鍋。當地方に於ける工業としての唯一のものである、現在四軒あるが、何れも他のものに比し最も大資本にて規模亦相當大である。然し東京城を中心として地方一帶の需要を充す程度のものに過ぎざれば當地の人口五千としても其の產額たるや推して知る可きものがある。

當舖。(質商)現在三軒ある何れも寧古塔に本店を有する所謂接當にして余り目覺しき活動はなし居らず。

糧棧。現在は二軒あるが何れも大資本のものではない地方出廻りの穀類としては相當の數に達するも皆出廻期寧古塔の糧棧が出張し來るを以て地方としては余り重大なる必要を感せざるものゝ如くである。

雜貨商。稍々大なるものが現在四十六軒あるが何れも百貨店式の極く小規模のものである、但し、哈爾濱、乃至は寧古塔等に於て見るが如き堂々たる店舗を構へたるものは一軒もなく、純然たる田舍式平家建である。而してショウウインドウの如きものを備へたるは絶無にて一見農家の如き構造にて只門戸に實物の商品見本を吊して看板に代ゆる等極めて幼稚なものである。

本地の輸入貨物（諸雜貨類）としては其の約七割は寧古塔にて仕入れ、其他の三割は哈爾濱、海林、營口、奉天、長春等より輸入する。

又當地に需要せらるゝ商品は、綢緞乃至毛織物等の如き高級品は極めて少く、稀に必要とするのは多く寧古塔若くは哈爾濱等にて購入するを常とするを以て從つて各店舗に於て販賣せらるゝものは皆田舍向の安物のみである。

當地に於ける日本商品として最も目に立つものは第一は綿織物であるが之に次ては琺瑯鐵器、陶磁器、釘、齒磨粉等の小間物類である。均しく寧古塔を中繼地とし其他總て寧古塔に準ずる。

土地の商工業は既に叙上の如くなれば從つて金融機關等は全々なく然も郵便局に於てさへも爲替送金を扱はず、只普通書狀並に小包郵便物を取扱ふに止る、然れば適々必要ある場合は總て現送の法に依る。

次に通貨としては主に吉林官帖を用ひ其他銅幣、哈大洋票等である寧古塔と同じきを以て茲に略す。

第二款　東京城商會

會長　陳景岐
副會長　朱慶長
會董（議員）　二十名
會員　二百余名
開設　宣統元年
役員任期　二ケ年（昨年改選）
會費　毎月　一等　四〇〇吊　二等　三五〇吊　三等　三〇〇吊　四等　二五〇吊
五等　二〇〇吊

第三款　商工業者調査表（民國十五年十二月現在）

公益燒鍋

資本金　一〇、〇〇〇元

資本主　新華両合公司（寧古塔）
總監理　孫彦卿（寧安商會長）
總經理　陳景岐
所在地　東京城東門外

永衡東西燒鍋

資本金　三、七五〇、〇〇〇吊
資本主　吉林永衡官銀號
總經理　周馥馨
副經理　趙鳳樓
所在地　東京城々内

永興泉燒鍋

資本金　一、一〇〇、〇〇〇吊
資本主　傳潤廷・曹印堂・明瑞亭
經理　周雅臣

所在地　東京城々内

其他東京城に於ける一流の商店は次の如くである。

寧古塔に本店を有する接當

當鋪	源和當	陳玉魁	二、〇〇〇元
〃	福興當	張文林	二、〇〇〇
〃	利金當	張守鳴	二、〇〇〇
雜貨	天成永	王玉書	二、〇〇〇
〃	永盛達	楊言甫	一、〇〇〇
〃	世昌得		一、〇〇〇
〃	利興和		
〃	長順福		
〃	大德昶		

第五編　西部線主要各驛

第一章　安達站

第一節　地　域

安達站は東支鐵道西部線に在り、安達驛の鐵道附屬地を云ひ所謂安達縣々城の所在地なる安達とは別である。

	露　里	支　里	哩
至哈爾濱	一一九	二三八	七九
至滿洲里		一、五一三	五〇四
至安達縣城	三〇	六〇	二〇
至拜泉縣城	一五〇		一〇〇
至昇平鎮	二〇		一三

の地點にして一畔千里附近に眼を遮る何物も無き一大平原の中に在り。特産物集散市場として好個の四通八達の地である。

第二節　沿　革

安達站は元と蒙古、杜爾伯特貝子旗下の遊牧地であつたが、光緒二十六年（西暦一九〇〇年）東支鐵道の建設と同時に附屬地を買收し安達驛の設置を見るや露人鐵道從事員及支那人商賈の來住するもの相踵ぎて來り光緒三十二年驛の北方六十支里に安達設治局を置き、嗣で民國二年三月、此地に縣治を布いて以來安達站は各地との交渉漸く頻繁となり、奥地の繁榮、周圍原野の開拓等により果然黑龍江省中部に於ける主要なる穀物集散市場として今日の發達を見るに至つた。現在の安達站市街は鐵道を境として道西、道東の二區に大別せられ、道東は商業地區として近來目覺しき發達をなし、目下八道街まで修築せられ道西は主として露人の居住地にて之亦相當の發達をなした。

當地は前記の如く黑龍江省中部地方に於ける穀物の集散市場として北は克山、拜泉、林甸、安達、青崗等の各縣、南は肇洲、肇東等各縣の主要物産たる大豆、小麥其他雜穀物の大部分は此地に集り東支鐵道に依つて各地に發送せられ冬期出廻りの最も盛なる時は一日大車一千二、三百台の多數に上る狀態である、隨て當地に於ける糧棧の數は甚だ多く大小數百軒に及び、外商にして活躍しつゝある者にワッサルド商會、華俄商會、カガン商會、西比利商會、ソースキン商會等ありて大資本を擁して特産物取引に從事してゐる。其他當地に於て直接特産取引を爲し居る日本商には北滿製油株式會社並に國際運輸會社出張所がある。

第三節　人　口

國籍別	戸數	人口	戸數	人口
	大正十四年		大正十五年	
日本人（內地人）	二一	八八	三一	九〇

中國人	四、二〇〇	二〇	二八、五〇〇	七六五	二九、三七三	二五	四、〇七五
露國人	九〇						一八五
計	四、三一六						四、三一六

中國人	五	四七	二、二三四五	八五八	二、三四〇		
露國人							
計							

（朝鮮人）

右は日本民會、特別區警察等の調査に依るも實數は大正十五年度に於て約三萬と稱せられてゐる。

第四節　官公衙（民國十五年十月十二日現在）

官公衙名	代表者	所在地
護路軍五十一團々長	牛青山	道東頭道街
特警四區總署々長	于國柱	同
安達市政分局々長	于駟驤	同
路警一段分署副段長	陳躍華	同
安達徵收局々長	邵邦翰	同
安達地畝局々長	金鄂	二道街
安達商會々長	杜鶴年	四道街
陸軍騎兵二營々長	周棟臣	七道街

第五節　保險

大中國保險	代理店	中西藥房
帝國火災保險	仝	英米煙公司代理店
老晉隆保險	仝	仝
太古保險	仝	益發合
香港聯泰保險	仝	義合公
上海聯保公司	仝	仝
三井洋行保險部	仝	國際運輸會社出張所

第六節　金融並通貨

金融機關			
中國銀行	貸出能力	大洋	一〇〇、〇〇〇元
邊業銀行	仝		二〇〇、〇〇〇
東三省官銀號	仝		一五〇、〇〇〇
黑龍江省貯蓄會	仝		一〇〇、〇〇〇

商業銀行　　貸出能力　大洋　五〇、〇〇〇元

以上の外安拜儲蓄會、廣信公司、奉天儲蓄會、東支鐵道附屬トランスポート、國際運輸會社出張所等である。

通　貨。

安達站に於ける通貨としては哈爾濱大洋紙幣及江帖（黑龍江省官帖）の二種ある。種類及額面等は齊々哈爾に於けるものと同じきを以て茲に略す。（齊々哈爾に於ける通貨の部參照）。

第七節　工　業

第一款　概　說

安達站に於ける工業として主なるものは次の如くである。

油坊（大五、中二、小六）	燒鍋	一
製粉工場　二	乾酪製造業	二
醬油釀造　三	電燈會社	二（露支各一）

油坊、燒鍋等を始めとして其他の工場は何れも皆專門のものは少く雜貨、質屋、錢業、糧棧、油坊、燒鍋等の兼業である。

次に主なるもののみを示し其他は別項商工業者調査表に委しく說明してある。

電燈公司（露人經營）

所在地　安達站鐵道附屬地

開設　民國四年

契約高　八百燈

代表サムローウイッチ

元と東支從事員の共同經營なるを民國十二年二月分離して獨立經營となる、一時二千燈に增加せしも支那電燈の爲め壓迫せられ驛關係個所にのみ配給す。

設備　汽機、二台　發電機二台

從事員　八名

料金　一六燭　大洋一、三〇　二五燭　二、〇〇　五〇燭　四、〇〇　一キロワット　四五

安達站電燈公司（華人經營）

所在地　道西三道街

資本　公稱、十万元（五万元）？

組　織　支那人株式組織
開　設　民國十四年五月
代表者　王星武、奉天省　楊謹堂、山東蓬萊縣
契約燈　（六　千　燈）
該公司は露人經營の露燈公司に對抗して設立したるものなり、華商は凡て當公司の電燈配給を受ける事となり增加一方にあり。
工場所在地　道東頭道街に發電所あり
百八十馬力ボイラー、百五十アンペア　三、五〇〇キロワット能力、一萬燈以上

繼祥火磨

所在地　道西三道街
資本　二十萬元
營業科目　製粉及稷子米
開設　民國十一年
敷地　千八百サーヂエン
建物　磚房二十間・土房二五間
經理　楊珍亭、山東牟平縣人
財東　崔鏡臣、山東人　鄒仲山、山東人　楊珍亭、山東人
不動產　六萬元位
（本店は奉天と云ふ）

北滿製油株式會社（北滿製油株式會社參照）

資本　七十五萬元
所在地　道西頭道街
營業科目　製油工場
開設　民國十年
敷地　二千七百サーヂエン
建物　事務所四、支那人宿舍（職工）百四十八坪
代表者　工場主任　藤村市太郎
株式會社　七十五万元四分一拂込、十八万七千五百圓
不動產　工場約十万元位

第八節　商　業

第一款　商業機關

イ、商務會

安達站商會

設　立　民國三年五月

會　長　杜　鳴　九

副會長　何　浚　川

會員數　二九二名

役員任期　二年、改選期毎期二月

會　費　一等より七等まで（一等月額　大洋　一〇元　七等　一元）

ロ、東支鐵道農事試驗場事務所に特産物の標本が陳列してある。

ハ、取引所

安達站信託公司

設　立　民國五年七月

經　理　葺　象　坤

資本金　官帖　九〇〇、〇〇〇吊

取引物件　大豆、小麥、（單位千布度）

取引人　二九人

身元保證金　一等　大洋　二、〇〇〇元　取引制限　二〇〇車

二等　八〇〇元　仝　七五車

三等　五〇〇元　仝　三〇車

賣買証據金　一車（一、〇〇〇布度）に付　大洋　一〇〇元

手數料　單位價格の一、五％（賣買双方より）

取引高　民國十三年度　二八、六〇〇餘車

第二款　商業概說

安達站に於ける商業の殷盛なる事東支鐵道全線第一の稱がある、今試に東支鐵道輸送數量表を見るに發送貨物の大宗たる大豆及其他の穀物は東支鐵道全線に於ける總發送穀物の約五分の一に當り一ケ年約二千萬布度に近い。

之等特産物の取引を爲す日、露、支各糧棧は數百軒に及び冬季出廻期に至れば當市に來集する特産物

積載馬車は日々千數百台を數へ、之が滯貨は年々夥しき數量に上り野積場に撒積となせる大豆の山は八百車乃至一千車の多きに上り之が亦數々所に點在し宛も小丘或は小山の如く其の壯觀なる事言語に絶す。

之に次では藥材、豆油及家畜類が僅か許りあるのみにして以上の各種を除けば他は絶無といふも敢て過言ではない。

而して麻袋及家畜の一部を除く外は全部哈爾濱方面に向けて輸送せられ、更に或は南滿に或は浦塩に輸出せらるのである。

第三款　到著貨物。（輸入貨物）

安達站に於ける輸入貨物としては土地の需要を充した外其の背後地たる安達、林甸、拜泉、克山等の各縣への轉送品をも扱ふを以て凡有商品を比較的多量に輸入してゐる。

數量上より見たる到著品の大宗は建築材及石炭であるが、之に次ては穀物、綿布、綿花、石油、麻袋塩、薪及家畜類が其の主なるものにして、其他、綢緞、陶磁器、金物、燐寸、砂糖、煙草及其他日用雜貨類である。

材木。材木の需要素晴しきものあり大部分は支那式家屋の建築材としての細丸太である。主に興安嶺方面より來る、道東五道街には素晴しく大規模な木材取引市場がある。

石炭。各油坊、燒鍋、電燈會社、製粉所等が消費するのみにして一般市民は之を需用しない主に穆稜炭、蘇城炭である、嘗て撫順炭が市場を獨占せし事あるも東支鐵道の運賃政策により現在は上記のものに大部分蠶食さるゝに至つた。

棉布。數量に於て優位にあるのみならず、金額に於ては遙かに他の商品を凌ぐの地位にある、仕入先は主として哈爾濱で、其他、大連、奉天、長春、營口等之に次ぐ大部分は日本製品である。土地柄上高級織物は少く粗布、大尺布、更紗等安物の需要が多い。

石油。從來、亞細亞及美孚の二行が代理店を置き天下を二分してゐた形であつたが昨年來勞農露西亞の石油シンジゲート公司が侵入し賣込に腐心してゐる。

麻袋。特產物輸出上必要欠く可からざるものであつて之が需要亦相當の數量に上り主に哈爾濱、營口等より仕入れるが然も年々供給不足の狀態を呈し、大豆の如きは撒積として野積にする有樣である。

塩。支那官塩局の專賣品に係り海拉爾及南滿より來る、土地の需要に供する外多くは田舍に向けて轉送せられる。

薪。燃料としての薪の到著亦尠からず、主に興安嶺方面より來るが多く東支鐵道從事員の外又一般市民も之を用ふ。

家畜。家畜の到著中大部分は馬であつて主に海拉爾及昂々溪、富拉爾吉方面より來る特產物運搬の爲

め皆田舍に散つて行く。

以上は東支鐵道の貨物輸送統計表に上つたものゝみを擧げたのであるが、其他統計表に上らざるものを擧くれば。

絹緞。多少日本品もあるが、先づ大部分江蘇、浙江の產と見て差閊へなく全部小包郵便を以て輸入せられる。

陶磁器。過半數は支那（九江）製品であるが殘りは日本品である。日本製品販路擴張の餘地は充分あるが只問題は價格の一點にある。

金物類。多く支那品及日本品であるが獨乙及英米品も多少ある。主として哈爾濱にて仕入れらる。

燐寸。當地に輸入さるゝ燐寸は齊々哈爾の魯昌公司品、及吉林、營口等の製品であつて、安全燐寸と黃燐々寸と約半々位にある、民國十四年六月以來黃燐々寸は大總統令を以て販賣を禁止されてゐるが、民國の威令も東三省の各地には行はれず、今日猶依然として斯品が販賣されてゐる。

砂糖。三萬市民の需要尠からざる外多くは背後他に向つて轉送される、仕入先きは主に哈爾濱であるが、南滿製糖及日本品が少くない。

煙草。秋林、ロバート、南洋兄弟及び、英美トラスト等の製品が鎬を削つてゐる。嘗て東亞煙草が非常に優勢なる地位を得たる事あるも不況以來現在は殆んど問題にならない。

大体に於て以上の如くであるが、總而言之輸入雜貨類に對する日本商品としての地位は先づ市場の四割以上約五割位は占めてゐる。

而して日本商品としての品名を擧ぐれば（諸雜貨類の）綿織物類、石鹼、ハミガキ粉、釦、琺瑯鐵器、陶磁器、皮革製品、硝子製品、アルミニユーム製品其他金物類、メリヤス類、タオル、腿帶子及其他綿糸布製品、角砂糖、味の素、醫藥品、鏡、其他小間物類である。

第四欵　安達驛發著貨物統計表

	一九一三	一九一四	一九一五	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二三	一九二四
普通便扱普通貨物發送高	一、八〇〇、二四三	一、五三〇、七九八	六、九七二、五八〇	八、二八八、〇六三	一七、三四二、六九九	一四、四七五、二八一	一七、四三〇、五三四	一九、二三三、四一九
其中 穀物	一、七八七、七二二	一、五二一、七二二	六、九二八、四五三	八、二五二、一四五	一七、二六一、五一五	一四、二九二、一二五	一七、二六五、六六五	一八、九三〇、四一六
藥材	二〇	一二三	一、九四九	七六三	六、一八〇	二六、五三四	二三、九四九	一五、七三五
麻袋	九九六	一、五九七	五、一四二	八、五二〇	一九、七七〇	二一、〇三七	一七、六五九	三二、二〇四
種子	三六	五五	三五	四、八二	二六、一四〇	六三、八〇四	八二、五七七	二〇八、六七〇
油								
家畜發送高	四五	八四	一二九	五六九	一、〇七二	一、〇三八	四、一七八	三、二六一
其中								

牛	三五	六三	一〇二	一三三	二二六	二六一	五〇三	七六三
羊綿羊	—	—	—	三三	四三六	七七、	四三四	七二八
馬仔馬	一七	二〇	四	一六	一五七	一、一三二	一、四九一	一、〇九四
豚	—	—	—	三	二八	三一三	一、六九〇	四八九
普通便扱普通貨物到着高	二四一、[illegible]六八	三三、〇〇四	六四六、三〇八	七三九、八二八	九一九、五五〇	一、九六二、〇七八	三、四〇六、八六三	三、五五一、〇八五
其中								
穀物	一九、三五三	一四、三九八	二一、三八六	二七、七五五	三九、二七七	一三三、九〇八	二〇三、八四六	九四、一一五
建築材	一六、七六三	五、一六三	一四〇、五九八	一四三、三三七	一〇三、三八四	二九九、一五九	九九三、一〇五	八七六、二五五
織物	六、七一七	四、七五〇	一八、一六三	四三、五八七	七〇、三五三	九九、〇三五	一〇九、四八七	一〇二、九四六
礦油	六、二五八	二、三二九	一七、〇一八	九、四五一	三三、一二七	五〇、七〇二	八五、九一六	一一九、三三二
麻袋	二五、一五九	四一、六〇四	一三一、五九九	一四三、六四三	二〇七、五二〇	一七四、四〇[illegible]	二〇六、五一七	二六三、六三七
擅	八八、六〇〇	一六四	六九、九一二	八八、一二七	五四、一九五	二三四、六七九	四〇四、〇九〇	三八六、一一三
薪	—	一五、三五五	七六、三六四	八四、六八七	五四、二八五	九五、一一三	一六七、九〇六	一九八、八二四
石炭	一二、七〇五	四、一五三	三七、四九九	三八、八八二	一七七、六四五	四二二、六二[illegible]	五八三、〇五五	[illegible]四五、四〇四
家畜到着高	三四	五六	四五	六一[illegible]	二四八	六二九	四二[illegible]	六一三
其中								
羊綿羊	—	—	—	五二六	三〇〇	一二六	六二	—
馬仔馬	八	三	三	四〇	一五	四六二	二二四	三三
牛	—	—	—	—	—	—	八[illegible]	四六

第五款 商店

第一項 日本人職業別、(大正十五年十月現在)

營業科目	屋號	代表者	所在地
醫師	同仁醫院	鈴木孫十郎	道東頭道街
食料雜貨	寶德洋行	吉田德次郎	仝 四道街
旅館	長崎屋	北浦サオ	仝 二道街
質	—	擅田政雄	仝 四道街
仝	金泰洋行	池崎仲二郎	仝 五道街
雜貨	—	才木松太郎	仝 二道街
仝	右田洋行	右田嘉二郎	仝 頭道街
仝	豐泰號	角裕二郎	仝 頭道街
賣藥	池崎大藥房	池崎ワカ	仝 三道街
運輸	國際運輸出張所	上野政治	道東三道街
油房	北滿製油株式會社	藤村市三郎	道西(別表)

第二項　支那側商工業者調査表

協力賓燒鍋

所在地　道東一道街南端
資本金　一萬六千圓
營業科目　燒酒製造業
開設　民國十三年二月十七日
敷地　千八百サーヂエン
建物　四百二十坪
經營者　日人　富田利七
露人　シチエルビン、ボライフ
不動產　二万五千元

万盛祥

資本　一萬元
所在地　大馬路街、道東二道街
營業科目　燒酒製造販賣及貸家
開設　民國三年
敷地　九百サーヂエン
建物　所有建物約三百間、大部分を貸家とす自己の使用するものは磚房二間、土房七間
約八十五坪
經理　王裕福、（安達縣人）
財東　王裕福個人出資
不動產　約五萬元

義順祥　（當地が本店）

所在地　道東北二道
資本　五萬元
營業科目　雜貨、糧棧、燒鍋
開設　光緒三十二年
敷地　九百サーヂエン
建物　樓房十一間、土房二十間、二百十坪

經　理　朱秀三、(直隸樂亭)
財　東　杜明九、(安達縣人)
不動產　四萬元位
聯　號　安達縣城義順祥

德順棧

資　本　二萬元
所在地　道東北三道街
營業科目　粮棧、店行、油坊、錢業、燒鍋
開　設　民國四年
敷　地　九百サーヂエン
建　物　磚房十間、土房三十間、二百坪
經　理　楊延璋、(直隸樂亭)
財　東　楊延璋、個人經營
不動產　一萬五千元

利達合　(油坊)

所在地　道東南端
資本金　二萬元、(新設當時十萬元)
開　設　民國七年
經　理　蔣林甫、(直隸)
財　東　益發合掌櫃連

湧豊油坊

所在地　道西南二道街
資　本　三萬元
開　設　民國十四年十一月
經　理　穆華卿
副經理　孫桂三
財　東　海拉爾儲蓄會
舊名は宏達油房にして民國七年に開設せるもの、民國十一年より十二年までは萬興號が賃借し、

海拉爾儲蓄會が二萬二千五百元にて買收せるものなり。

元巨祥油坊

所在地　東道南端

資本金　三萬元

營業科目　製油業

開設　民國十二年十二月

敷地　二千七百サーヂェン

建物　事務所及宿舍九十四坪、工場機關室六十六坪、職工宿舍其他、四十五坪、計二百〇五坪

經理　孫明九、（山東）

財東　哈爾濱元巨祥

舊名は同昇泰にして民國五年の開設なれども、財界不況の爲め上海興業銀行の担保となる。

同大油坊

所在地　道東南端

資本金　二萬元

建物　磚房二十三間、土房三十三間、事務所三十九坪、工場五十五坪、倉庫三十坪、事務員職工宿舍厨房其他、約三百五坪

經理　蔣林甫

財東　范靜波、田希甫、馬希聖

元成永

所在地　道西二道街

資本　二萬元

營業科目　粮棧、油房

開設　民國十年

敷地　四百五十サーヂェン

建物　磚房十間、土房二五間、約二百坪

經理　楊岱東、（山東牟平縣人）

財東　孫啓三、（山東）

不動產　約六千元

宏達油坊

所在地　道西二道街
資本金　五萬元
開設　民國九年
敷地　九百サーヂエン
建物　磚房十七間、土房二十間、約百八十五坪
經理　致遠堂
財東　致遠堂個人出資
不動產　三萬元

義順合油坊

所在地　道東北二道街
資本金　江帖一百萬吊
所在地　油坊業
開設　民國八年
敷地　千八百サーヂエン
建物　磚房二十間、院內八間、土房三十八間、約三百三十坪
經理　杜鳴九
財東　杜鳴九個人出資
不動產　二萬五千元位

洪泰昌

所在地　道東北三道街
資本金　一萬元
營業科目　粮業、店行、油坊
開設　民國元年
敷地　九百サーヂエン
建物　磚房三十間、土房八十間、約五百五十坪
經理　王藎臣、(黑龍江省人)

不動産　三萬元（王蓋臣個人出資）

同德福

所在地　道西二道街

資本金　一萬元

營業科目　油房、粮棧

開設　民國元年

敷地　磚房十間、土房二十間、約百六十坪

建物　總坪數、百八十サーヂエン

經理　王星五、（奉天人）

不動産　一萬元位（王星五個人出資）

萬興號（當地が本店、聯號、哈爾濱萬興錢、營口萬興錢）

資本金　三萬元

所在地　道西頭道街

營業科目　粮棧、代理業、油坊

開設　民國四年（但し油坊は民國十三年十月開設）

敷地總坪數　九百サーヂエン

建物總坪數　磚房十間、院內磚房十一間、土房五十間

經理　楊謹堂、（山東蓬萊縣）

合資組織　楊謹堂、（山東）　苗蔭山、（山東）　錢清臣、（山東）

哈爾濱　萬興錢、營口　萬興錢

不動産　一万元位

公合興

所在地　道西二道街

資本金　二萬元

營業科目　粮棧、雜貨、油坊

開設　民國六年

敷地總坪數　四百五十サーヂエン

建物總坪數　土房二十三間百二十坪

經　理　白玉峯、（長春人、三十九才）
合　資　才星五、（長春）　白玉峯、（長春）
不動產　一萬元位

萬興東

所在地　安達站道東四道街
資本金　大洋　二萬元
營業科目　粮棧、錢業、油坊
開　設　民國七年
敷地總坪數　四百五十サーヂエン
建物總坪數　磚房五十六間房子二百八十坪
經　營　高錫九、張向陽（直隸樂亭人）
　　右兩名の合資組織
不動產　大洋　二萬二千元位

廣信公司

所在地　安達站、道東三道街
營業科目　銀行、粮棧、錢業
開　設　民國六年
敷地坪數　四百五十サーヂエン坪
建物總坪數　磚房十間、院內磚瓦房十四間
經　理　羅贊臣、（撫寧縣人）
官　營　黑龍江省廣信公司
不動產　當地、大洋二萬五千元位（哈爾濱に於ける華商聯號參照）

永裕福

所在地　安達道東北二道街、出張所、哈爾濱、昂々溪、滿溝、訥河
資本金　二萬元
營業科目　粮棧、錢業、店行
開　設　民國四年
敷地總坪數　九百サーヂエン

建物總坪數　磚房四十三間、土房十五間
經　理　趙香亭、（直隸樂亭縣人）
財　東　吳利周（江省訥河縣人）　趙香亭、（直隸樂亭人）
不動產　三萬八千元、

東昇棧

所在地　安達站五道街
資本金　大洋五千元位（二萬元とも云ふ）
營業科目　粮棧、店行、錢業
開　設　民國七年
建物總坪數　磚房五十五坪土、土房百十坪
經　理　李子厚、（黑龍江省人）
資本金　合資五千元位
財　東　李子厚、（黑龍江省）

興緣東

所在地　安達站三道街
資本金　江帖四百萬吊
營業科目　粮棧、店行
開　設　民國十年
敷地總坪數　一千三百五〇サーヂエン
建物總坪數　二百二十坪
經　理　蔡樹勛、（奉天人）
合資組織
不動產　家屋　大洋一萬元位

恒德彩

所在地　道東北二道街
資本金　五千元
營業科目　粮業、店行
開　設　民國三年

敷地總坪數　九百サーヂエン
建物總坪數　土房三十五間
經　理　吳任成、（直隷樂亭）
合　資　李憶德（直隷樂亭）との合資
不動產　八千元位

日　新　昌

所在地　道西二道街
資本金　一萬元
營業科目　粮業、錢業
開　設　民國三年
敷地總坪數　四百五十サーヂエン
建物總坪數　磚房十間、土房三十間、約二百坪
經營者　楊蘭亭、（山東牟平縣）
出資者　楊蘭亭個人經營
不動產　一萬元位、山東の自家は十五萬元位を有すといふ

實業粮棧

所在地　道東二道街　（本店は長春、出張所哈爾濱）
資本金　四萬元
營業科目　錢粮業
開　設　民國十年
建物總坪數　信託公司院內協和棧內
經　理　傅義三、（直隷樂亭人）

益發合　（本店は直隷、支店、哈爾濱、長春、安達、齊々哈爾）
所在地　道東北二道街、支店、道東五道街（三万元）
資本金　大洋八萬元
營業科目　雜貨、錢糧業
開　設　民國元年

敷地總坪數　千三百五十サーヂエン
建物總坪數　磚房二十五間、土房二十五間、二百五十坪
本店、經理　裴朝禎、（直隷樂亭）　匡夢庚、（長春人）
支　店　張蔭南　直隷樂亭（益發合）
財　東　劉夢斗、（直隷樂亭人）
不動産　二　萬　元　位

益發錢

所在地　道東北二道、（本店は直隷）
資本金　十　萬　元
營業科目　錢　粮　業
開　設　民　國　三　年
敷　地　益發合內寓
建物總坪數　磚房四間
經　營　劉玉齋、（直隷樂亭）
財　東　哈爾濱益發合

永順棧

所在地　道東北二道街
資本金　三萬八千元（長春永順棧の支店）
營業科目　粮棧、錢業
開　設　民　國　十　年
敷　地　九百サーヂエン
建　物　磚房十間、院內磚房、二十六間、約百八十坪
經　理　栗雲卿、（直隷樂亭）
不動産　大洋　二万五千元位

同昌德（哈爾濱の公同和の支店）

所在地　道東北二道街
資本金　三　萬　元

營業科目　錢　粮
開　設　民國十三年
敷　地　四十五サーヂエン
建　物　磚房四間、土房五間、四十五坪
經　理　萬芝泉、（直隸樂亭）

天盛東（哈爾濱天盛東の支店）
所在地　道東北二道街
資本金　五萬元、（公稱二千元）
營業科目　錢粮、店行
開　設　民國八年
建　物　天合東內宿
經　理　張蔭升、（樂亭）

廣福達

所在地　道東北三道街、（當地は本店、聯號、廣盛福、支店、拜泉）
資本金　三萬元
營業科目　錢粮、貸家
開　設　民國十一年
敷　地　九〇〇サーヂエン
建　物　磚房百四十間、土房十二間
經　理　甄愼修、（樂亭）
財　東　安達縣廣盛福
不動產　四萬元

興隆粮棧

所在地　道東北二道街
資本金　一萬二千元
營業科目　錢、粮、店行

開　設　民國十二年
敷　地　千八百坪
建　物　土房六十間
經　理　張壁城、（寧河縣）
財　東　王榮九、（青崗縣）
不動產　二萬元位

廣　信　升

所在地　道東三道街
資本金　五萬元
營業科目　錢粮
開　設　民國十年
敷　地　七十サーデエン
建　物　磚房十間
經　理　羅云宣、（撫寧縣）

財　東　哈爾濱廣信升（信託公司內寓）

三　盛　棧

所在地　道東北三道街
資本金　二萬元
營業科目　錢粮
開　設　民國十年
敷　地　四十八サーデエン
建　物　土房十間、約五十坪
經　理　高樹功、（直隸樂亭）
財　東　長春三盛棧の分店

廣　信　豐

所在地　道東北二道街
資本金　五萬元
營業科目　錢粮

開設　民國九年
敷地　二十サーヂェン
建物　磚房四間、二十坪
經理　李東陽、（直隸樂亭）
財東　哈爾濱廣信豊

廣勝茂

所在地　道東北三道街
資本金　八千元
營業科目　粮業、店行
開設　民國十三年
敷地　九百サーヂェン
建物　磚房八間、土房十二間、約百坪
經理　王繼五、（安達縣）
財東　王繼五、廣勝達

不動産　一萬元位

天合東

所在地　道東北二道街
資本金　二万元
營業科目　錢粮
開設　民國十三年
敷地　約四十サーヂェン
建物　磚房五間土房三間
經理　龐靜波、（直隸樂亭）
財東　仝　哈爾濱天盛東

同亙東

資本金　二万五千元
營業科目　錢粮
開設　民國十一年

敷　地　百サーヂエン
建　物　磚房七間、土房五間、約六十坪
經　理　王　慶　餘

協　和　棧

所在地　道東二道街
資本金　二　万　元
營業科目　錢　粮
開　設　民　國　十　年
敷　地　七十三サーヂエン
建　物　磚房十五間、七十五坪
經　理　趙榮九、（直隸樂亭）
財　東　長春協和棧支店

（本店は齊々哈爾濱、呼蘭、安達、聯號、公裕號、公濟當）

黑龍江省儲蓄會

所在地　道東三道街

資本金　二　十　萬　元
營業科目　錢粮、金融、當舖
開　設　民　國　六　年
敷　地　四百五十サーヂエン
建　物　磚房二十七間、約百三十五坪
經　理　孫品三、（奉天省鐵嶺縣人）、
財　東　吳督軍、孫品三、其他官界要人
不動產　二　萬　元

公　濟　福

所在地　道東北二道街
資本金　三萬五千元
營業科目　錢　糧
開　設　民國十一年
敷　地　約二十五サーヂエン

建　物　磚房四間、土房二間、三十坪
經　理　高靜仁、（天津人）
財　東　高靜仁、其他との合資

福　興　達

所在地　道西一道街
資本金　二　萬　元
營業科目　粮　棧
開　設　民　國　元　年
敷　地　百八十サーヂエン
建　物　磚房十間、土房百間、約五百五十坪
經　理　人　李向陽、（長春）
財　東　李向陽個人の出資
不動產　二　萬　元　位

福　聚　和

所在地　道東北二道街
資本金　二　萬　元
營業科目　雜貨、粮棧、店行
開　設　民　國　元　年
建　物　磚房十間、土房三十間、二百坪
經　理　梁義臣、（直隸）
財　東　董秀峯、（安達縣人）
不動產　二　萬　元　位

順

所在地　道東二道街
資本金　四萬元（二萬元ともいふ）
營業科目　雜貨、粮棧
開　設　民　國　四　年
敷　地　九百サーヂエン

建　物　磚房十間、土房八間、約四百五十坪、外に貸家八十間
經　理　王璞山、（直隸寧河縣人）楊席賓
財　東　劉玉麟、（吉林省本府內人）（及其他）
不動產　三萬元位

福　和　昌

所在地　安　達　站
資本金　六萬元（公稱四萬五千元）
出張所　哈爾濱、蒲溝、昂々溪
開　設　民國十四年
營業科目　錢　粮　棧
經　理　高錫九、（直隸昌黎人）
財　東　高錫九、（直隸昌黎人）　萬福麟、（吉林省）

順　興　隆

資本金　三萬元
營業科目　粮　棧
開　設　民國十四年十月
經　理　母錫三、（直隸樂亭）
財　東　母錫三、蕭德潤、（直隸樂亭）

天　豐　東（哈爾濱天豐東の支店）

所在地　道東北二道街
資本金　三萬元
營業科目　粮　棧
開　設　民國十三年
經　理　温輯五、（直隸樂亭）

天　豐　聚

所在地　本店、道東北二道（支店、道東北四道街）
資本金　三萬元（二萬元とも稱す）

營業科目　雜　貨
開　設　民國五年
敷　地　九百サーヂエン
建　物　磚房十間、土房三十間、約二百坪
經　理　曹惠卿、（直隸樂亭）
財　東　哈爾濱、天豐臣
不動產　約二萬元位

誠　泰　厚

所在地　道東四道街
資本金　二　万　元
開　設　民國五年
營業科目　雜　貨
經　理　白雲樓、（奉天蓋平）
財　東　白雲樓、（奉天蓋平）　韓壽臣、韓盛三、韓性之、（山東黃縣）

不動產　一萬二千元位

復　亘　成

所在地　道東南三道街
資本金　五　千　元
營業科目　雜　貨
開　設　民國十年
敷　地　二十六サーヂエン
建　物　磚房二間、土房三間
經　理　張　某
財　東　張某、張正臣、（山東黃縣）　萬盛祥の借家

興　盛　東

所在地　道東南二道街
資　本　一萬元（公稱五千元）
營業科目　雜　貨

開設　民國六年
敷地　百二十サ—ヂェン
建物　約六十坪
經理　王鳳鳴、（山東人）合資組織
不動產　興盛增の借家

大成永

所在地　道東三道街
資本金　六千元（公稱資本四千元）
營業科目　雜貨
開設　民國六年
敷地　三十六サ—ヂェン
建物　磚房三間、土房五間、四十坪
經理　劉華堂、（山東黃縣）
財東　劉華堂、楊謹堂、山東黃縣　萬盛祥の借家

德升東

所在地　道東南二道街
資本金　一萬元（合資組織）
營業科目　雜貨、菓子製造業
開設　民國七年
敷地　四十三サ—ヂェン
建物　磚房三間、土房七間、約六十五坪
經理　張萬有、（直隸保定）

謙益亨

所在地　道東三道街
資本金　四千元
營業科目　雜貨
開設　民國十一年

敷　地　二十六サーヂエン
建　物　磚房二間、土房三間、二十五坪
代　表　山義珍、（山東黄縣）
財東、合資　山義珍、其他、萬盛祥の借家

萬春堂

所在地　本店は道東二道街、（錢、粮、藥）　支店は道東三道街、（雜貨）
資本金　一萬元（公稱資本千五百元）
營業科目　雜貨、錢、藥舖
開　設　民國四年
敷　地　四十四サーヂエン
建　物　磚房三間、土房七間、約五十坪
經　理　馮萬一、（直隷撫寧）
財　東　馮犀蕫、馮萬一、（直隷撫寧）　廣福達の借家

聚盛利

所在地　本店、道東三道街　支店、道東四道街

資本金　一萬元
營業科目　雜貨
開　設　本店、民國六年（一萬元）　支店、民國十四年十月（一萬五千元）
敷　地　三十三サーヂエン
建　物　磚房二間、土房五間、約三十五坪
經理、本店　王華堂、（山東黄縣）
財　東　王華堂、仝　其他　萬盛祥の借家
支店、經理　所子恒、（山東推縣）

義和公

所在地　（本店、道東三道街　支店、道東六道街）
資本金　本店、五千元　支店、二萬元
營業科目　雜貨
開　設　本店、民國十一年　支店、民國十四年十一月
敷　地　二十八サーヂエン

建　物　磚房二間、土房三間、二十五坪
經　理　本店、呂松三、（山東）　支店、呂鳳起、（山東黃縣）
財　東　呂松三、（山東）其他　萬盛祥の借家

興盛增

所在地　道東南二道街
資本金　二　萬　元
營業科目　雜　貨
開　設　民　國　五　年
敷　地　四百五十サーチ
建　物　磚房十九間、土房七十間
經　理　劉耀亭、（山東推縣）　李玉齊、（直隸樂亭）
不動產　一萬五千元

興盛福

所在地　道東三道街
資本金　一萬元（公稱七千元）
營業科目　雜　貨
開　設　民　國　三　年
敷地面積　四十九サーチエン
建　物　磚房五間、土房五間、約五十坪
經　理　王雲閣、（山東）
財　東　王雲閣、王松廷、（山東黃縣）　廣福達の借家

福遠達

資本金　五千元（公稱三千元）
營業科目　雜　貨
開　設　民國四年
敷　地　約四十サーチエン
建　物　磚房三間、土房五間、約四十坪
經　營　李向三、（山東黃縣）

財　東　李向三、（山東黃縣）　呂明昇、（山東）　興盛增の借家

天德厚

所在地　道東大馬路
資本金　一萬五千元
營業科目　雜　貨
開　設　民國六年
敷　地　九サーヂエン
建　物　磚房二間、土房五間、三十五坪
財　東　王某、萬盛祥の借家

福順祥

所在地　大馬路、道東二道街
資本金　八千元、（公稱二千四百元）
營業科目　雜　貨
開　設　民國二年
建　物　磚房三間、土房五間約四十坪
經　理　呂愼齊、（山東）
財　東　呂愼齊、（山東）　李軒廷、（山東黃縣）　廣福達の借家

義興成

所在地　道東北三道
資本金　一萬元
營業科目　雜　貨
開　設　民國八年
敷　地　四十サーゼエン
建　物　磚房四間、土房五間、約四十五坪
經　理　朱明山、（直隸寧河縣）
財　東　朱明山、（仝　　）　其他　合資、廣福達の借家

裕興東

所在地　道東三道街

資本金　六千元、（公稱八千元）
營業科目　雜　貨
開　設　民國六年
敷　地　四十二サーゼエン
建　物　磚房十一間、土房二十七間
經　營　曲耀廷、（山東黃縣）
財　東　曲耀廷、馬其田、黃佐臣、（山東黃縣）　萬盛祥の借家

裕和吉

所在地　道東四道街
資本金　一萬元
營業科目　雜　貨
開　設　民國十三年十一月
經　理　王作亭、（山東黃縣）

和泰仁

所在地　道東四道街
資本金　二萬五千元
營業科目　雜　貨
開　設　民國十四年十一月
本　店　安達縣城和泰盛
經　理　蔣俟慶、（山東掖縣）
財　東　安達縣城和泰盛

福興昌

在所地　道東五道街
資本金　一萬元
營業科目　雜　貨
開　設　民國十四年十月
財　東　本店は安達縣城、福興昌
經　理　趙明如、（山東黃縣）

同仁藥房

所在地　道東三道街

資本金　一萬元、(公稱二千元といふ)

營業科目　藥　種　業

開　設　民國十年

建　物　磚房三間、土房三間、三十三坪

經　理　李子臣、(昌黎人)

財　東　李子臣、(昌黎)　王少堂、(新城縣)

不動產　萬盛祥の借家

其他各種商店一覽表。

營業科目	商號	公稱資本
糧業	公裕號	四五、〇〇〇元
〃	大順昌	二〇、〇〇〇
〃	永衡德	二〇、〇〇〇
〃	和順泰	三〇、〇〇〇
〃	東永茂	一八、〇〇〇
〃	萬春堂	二五、〇〇〇
〃	慶泰祥	二〇、〇〇〇
〃	榮增德	一〇、〇〇〇
日用雜貨	興順隆	八、五〇〇
〃	源茂盛	六、〇〇〇
〃	勝泰厚	六、〇〇〇
〃	大有陞	二、五〇〇
〃	天發厚	二、五〇〇
油坊	永豐油坊	二〇、〇〇〇
〃	福和油坊	一〇、〇〇〇
糧棧	和泰祥	三〇、〇〇〇 (哈爾濱に本店を有す)
〃	東興	二〇、〇〇〇 〃
馬車宿兼糧棧	裕泰東	五、〇〇〇
〃	永昌德	四、〇〇〇
〃	福升永	四、五〇〇
〃	德順棧	六、〇〇〇

馬車宿兼糧棧	天順源	大洋三、〇〇〇元
〃	廣勝茂	三、〇〇〇
〃	德興盛	二、五〇〇
〃	東興達	五、〇〇〇
〃	天增福	二、四〇〇
〃	德新昌	二、五〇〇
風呂屋	德江泉	一、八〇〇
〃	九江泉	二、〇〇〇
〃	東發泉	二、〇〇〇
〃	永裕泉	一、五〇〇
食料雜貨	振源茂	一、八〇〇
〃	福源湧	一、五〇〇
〃	太和東	一、二〇〇
〃	醉翁亭	一、〇〇〇
〃	興順永	二、〇〇〇
食料雜貨	永源大	一、六〇〇
〃	三盛永	一、三〇〇
〃	同巨盛	一、四〇〇
藥種及醫院	萬泰德	一、六〇〇
〃	保興湧	一、〇〇〇
〃	義泰隆	一、四〇〇
〃	吉盛隆	一、三〇〇
〃	誠泰裕	一、五〇〇
〃	惠民醫院	二、〇〇〇
〃	德全盛	一、五〇〇
〃	大德利	一、〇〇〇

第二章　昂々溪

第一節　地域並沿革

昂々溪は東支鐵道西部線に在り。

至哈爾濱　二五三露里（一六八哩）
至滿洲里　一、二四五支里（四一五哩）
至齊々哈爾　四五支里（一八哩）
至洮南　二二六粁（一五〇哩）

の地點にして、黑龍江省城齊々哈爾とは輕便鐵道を以て連絡し、昨年（大正十五年八月）は洮昂鐵道亦此地まで開通し北滿に於ける交通上の一重要地點となつた。

此地は東支鐵道の開通に依つて始めて發達したる市街にして、我北滿出兵の際兵站倉庫を此地に設けたる爲め更に其の發展を促進し今又洮昂線の開通に因つて將來の發展亦推知す可きものがある。

當地の東支鐵道附屬地は實に尨大なる面積（六、五〇〇晌地）を有し、鐵道の北側は主として鐵道關係の用地に充て、停車場、機關庫、倶樂部、學校、教會、及鐵道從事員宿舍等があり、南側は日、支、露人の商業區域にして現在の商工業は製粉一、油坊一ある外余り見る可きものはないが前記の如く交通の要害に當れる此地の將來の發展は誠に刮目に價す可きものがあるであらうと思惟せらる。

第二節　人

國籍別	大正十四年 人口	大正十五年十月 戶數	大正十五年十月 人口
日本人	五六	九	四〇
中國人	七、二一四	七六八	七、六一四
露國人	一、四五六	三七九	一、三八九
計	八、七二六	一、一五六	九、〇四三

第三節　倉庫業

名稱	代表者	建物樣式	容積
豐盛和	常生元	煉瓦造　五棟	一三、五〇〇布度
福興全	崔福亭	仝　六	一八、〇〇〇布度
德順棧	張福元	仝　一〇	三〇、〇〇〇布度
趙家店	趙元升	仝　六	一五、〇〇〇布度
天盛洪	趙支玉	仝　五	綿布　二〇〇俵
育升慶	田兆英	仝　四	仝　二〇〇俵
瑞興源	陳寶巨	仝　二五	六五、〇〇〇布度

第四節　工業

昂々溪に於ける工業として現在見る可きものは製粉工場一ヶ所、油房一ヶ所あるのみにして其他は土式手縮油房二、三ヶ所及燒鍋等あるも何れも小規模にして余り活動は爲し居らざるも洮昂鐵道の開通を見たる事なれば、將來特産物の出廻旺盛となると同時に住民の增加を來す可く從つて漸進的に工業の發達を來すであらう事は何人にも想像せらるゝ所である。

製粉會社

名稱	振昌火磨
執事人	林書琯
資本金	大洋三〇〇〇元
生產能力	一日　三〇〇〇布度

昂々溪に於ける油坊の製造能力。

商號		
義豐祥	一日、粕、九〇〇枚	
三益公	仝	六〇〇
義增永	仝	六〇〇
日昇恒	仝	三〇〇
德源湧	仝	三〇〇
巨源永	仝	一五〇
德增油坊	仝	六〇〇

第五節　商業概說

第一款　概說

昂々溪に於ける商業は地方的には從來餘り重大意義を有せざるも只黑龍江省々城に至る輕便鐵道の分岐點として及最近洮昂鐵道と東支鐵道との交叉點として政治的並に商業上重要な土地となつた爲め、又特產物の出廻りも年々漸增の傾向にあれば將來斯業の發達を見る可きは當然の歸結であらねばならぬ。今東鐵、昂々溪驛發著貨物數量表に就て見るに。（別表統計表參照）

第二款　發送貨物

大豆が其の大宗にして粟、高粱、小麥等之に次ぐ年々增加の傾向にあるが、將來は更に激增を爲す可く豫想されてゐる。

穀物の外肉類、野菜類、藥材、魚類　乾草等が主なるものにして其他は、火酒類、家畜類及食料雜貨

類等あるのみである。

肉類は、馬、牛、豚、羊等と共に相當の餘力あり主として哈爾濱へ向け輸送せらるゝが、農耕の發達に從ひ將來或は減少するの憂なきを保し難い。

野菜類は主として馬鈴薯及キャベッ等にして之も主に哈爾濱に仕向けらるゝが、地質の關係上非常に優良なものが生産せられる。

因に馬鈴薯の生産多量なるを以て嘗て澱粉製造工業を計畫せるものありしも水質不良の故を以て行惱んだとの事である。

第三款　到著貨物

到著貨物の最多なものは石炭にして、之に次では石油、鹽、麻袋、棉布、棉花、セメント石灰、食料穀物、米、薪、建築材、砂糖、煙草、家畜等が其の主なるものにして其他は窯業製品金物類及其他各種諸雜貨類である。

石炭。は嘗て撫順炭が市場を獨占せる事あるも東支鐵道の運賃政策に依り現在は知多炭、札賚諾爾炭及チエルノフスキー炭に市場の大部分を奪はれ微々として振はざる狀態であるが、之が消費者は振昌火磨及三益公油坊であつて一般市中にては需用されず、何れも品質不良なるを以て工業家は凡て撫順炭の供給を熱望してゐる。

石油。は從來亞細亞及美孚の兩者であつたが、近頃東支鐵道が極端なる運賃政策を用ひ勞農露國製品の賣込に腐心したるも洮昂線の開通に依つて目下混戰狀態に陷つてゐる。

麻袋。特產物輸出上必要欠く可からざるものであつて從來主に哈爾濱より仕入られてゐたが將來は四平街若くは營口方面より直輸入せらるゝやも圖り難い。

棉布。土地の需要も相當にあり又齊々哈爾城内に轉送さるゝものもあるが。從來東支鐵道の運賃が餘りに高價に過ぐる爲め此種高價なる雜貨類は全部小包郵便を以て輸入され當地を限界として以西の各地は全く鐵道貨物列車便を利用せざるを普通とする。（滿洲里及海拉爾驛貨物統計表參照）

此種鐵道の運賃政策が北滿の商工業の發達乃至は產業の開發を防ぐる事甚大なものがある。別表貨物統計表に於て明らかに表れ居る如くセメント、米、薪、材木等を始めとして砂糖といひ、煙草と稱し、又家畜類等皆小包郵便物として不適當な貨物のみが輸送さるゝに止り各種諸雜貨類に至つては何れも小包郵便を利用する狀態である。

第四款　昂々溪驛發著貨物統計表

	一九一三	一九一四	一九一五	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二三	一九二四
普通便扱普通貨物發送高	五四九、〇二六	五〇九、八九六	六七九、四九七	一、六六八、六二二	二、三六八、六〇二	二、八四五、六二七	四、七〇八、三〇二	四、二六四、二八六
其中								

穀物	三四九、六三三	三四七、三一三	五三三、五一五	一、四八〇、〇六九	二、一一一、七八二	二、六五四、七五一	四、四五一、〇三五	三、八八二、一五七
藥材	一、九三三	二、六五〇	一、一〇三	二、五〇一	一三、五〇二	一五、七三八	一七、四五一	一〇、二九九
肉類	二五、九七九	九、八三三	一九、七五一	一四、〇八八	二八、七五〇	三〇、〇九四	二一、三三五	一四、八〇九
野菜類	二〇、二〇〇	一一、七八六	一一、二三〇	六、九八五	三三、〇六六	五三、〇六六	七四、二九二	五七、五一〇
魚類	二五、九八七	六三、六三三	三三、四一二	三、三四六	三一、七三〇	一三、三七三	一九、三三〇	二一、一四三
乾草及藁	三八〇	四〇〇	二六〇	五、八三〇	三二、一一三	六三	二九	六四、四八三
火酒類	八、五八四	四、四一九	五、二三七	一〇、六八五	七、五五五	二、三八七	一、三四九	一、九四一
食料雜貨	三、五六一	一、三九二	四六六	二、三一五	一〇、八九四	一〇、三四一	七、九三六	四、八一六
家畜發送高	四四三	二、二六〇	二、五三三	一、四〇七	六、〇三四	一一、八六九	一一、六四三	五、五九一
其中								
牛	三〇三	二、二二三	二、四〇六	六一九	三、六四七	三、〇四〇	四、一〇〇	三、一六三
羊緬羊	六〇	―	―	六六	三六三	二、八二〇	一、九一二	三〇[illegible]
馬仔馬	六七	五	八〇	一五二	五五〇	四、四四〇	二、〇九六	七〇[illegible]
豚	―	―	一五	五六三	一、四四一	一、五三〇	二、一九〇	一、二〇八
普通便扱普通貨物到著高	一、〇六二、五九九	八五七、四七〇	一、四二二、四七六	五三五、三八六	六三九、二五四	一、一九八、〇八一	一、一六六、九一三	一、四三二、三〇
其中								
穀物	一八一、〇八八	一四九、八九五	四四、九八七	三六、〇二一	八、一〇三	六八、一七七	四、二四一	一六、六四[illegible]
雪花、石膏、石膏、石灰白亞セメント	三六、八四一	四一、一一六	六一、一三一	一七、三九四	二四、六四〇	四二、七七六	一五、七六八	四五、八[illegible]
米	三、九七二	二三、六五〇	四一、五五五	六、三九一	一三、三八一	二四、九一七	三一、〇四七	四、六〇[illegible]

薪	二、三五〇	五三、九六〇	二三四、六八〇	一六三、六五〇	三六、八七五	一〇四、一七六	四〇、三五〇	六一、〇五〇
建築材	一三、一一四	一七、一八五	二、七四一	一五、一八八	二五、九七一	九〇、一四三	四六、〇三九	三一、六八七
工場製品	四八、三七〇	四一、七八六	四八、五四六	四〇、一四七	四五、八九八	七三、一一七	七六、六三七	六七、〇九五
礦油	四三、九七八	三四、四五〇	三七、一三〇	四〇、九〇八	一六、八六三	四〇、〇三三	五二、六九九	七二、三三三
麻袋	五、七六四	五、七六九	一〇、一四八	三四、一一八	三四、一一八	四二、四九七	六三、九四八	五八、〇三七
擴	三三五、一九三	一二三、一三五	三〇三、三七〇	七二、〇三七	一四〇、二三三	一六九、四六六	一九七、四〇二	三三九、四〇〇
石炭	七八、六六八	八〇、四一[illegible]	二六四、八二五	五〇、五五五	五〇、五五五	一九一、五三三	二五五、四八四	四三六、一六五
煙草及其製品	一五、〇九〇	一一、九七九	一八、四一〇	一二、〇〇三	一八、一四六	三〇、八二〇	三八、一四六	二六、三六五
砂糖ザラメ	一四、一三五	一三、八八三	一八、八八一	三、八四三	一七、九六二	一一、二七七	三一、一一九	三六、三四四
家畜到著高	八、一六八	七、五一六	一、〇〇三	一四、八七一	一五九	一、一四三	一、六八三	一、〇七三
其中								
牛	三、三三七	二、四五四	二〇三	五、〇七四	一五	三二七	六五	九五〇
羊緬羊	三、八六五	四、二六三	六〇三	九、五六九	七九	二〇六	一、四四〇	―
馬仔馬	一、〇一三	六〇五	一五七	二三六	五九	六〇五	一六八	一一九
豚	―	―	―	―	―	―	四	―

第五款 商務會

昂々溪商會

設立 民國六年十月

會長　張書山
副會長　林從實
會董（議員）　一名
會員　三二名
役員任期　二ヶ年、改選期每期七月

第六款　商店

第一項　昂々溪內地人職業別一覽（大正十五年十月現在）

營業科目	屋號	經營者	所在地
銃砲火藥、時計、食料雜貨	下里商店	下里保	東頭道街
藥種賣藥商	平野藥房	平野京次郎	仝
仝	油屋藥房	中村唯作	仝
仝	中里藥房	中里妙作	西頭道街
寫眞業	喜井寫眞館	喜井德一	東二道街
旅館業	昂榮館	中里トミ	仝
仝	龍沙館支店	井下傳一	東頭道街
運送業	國際運輸出張所	足立七郎	東二道街
質屋業	薄利當	村田市松	西頭

第二項　支那側商工業者表

商號	代表者	職業別	資本金
趙家店	趙魁喜	粮業	大洋一〇〇、〇〇〇元
豐盛和	張秀峰	粮業、雜貨	—
德增賬房	馬峰山	粮業、油坊	三〇、〇〇〇
三益公	王紀聖	粮業、油坊	一五〇、〇〇〇
振昌火磨	林從實	火磨	三〇〇、〇〇〇
廣順棧	何炳三	粮業	二〇、〇〇〇
德升棧	劉濟川	—	一〇、〇〇〇
福興全	崔發亭	—	二〇、〇〇〇
裕泰店	馬喜芝	粮業	三〇、〇〇〇

義豐祥	趙滌波	油坊	一〇〇、〇〇〇
謙亨德	徐輔廷	粮業	三〇、〇〇〇
增盛公	張完瑞	—	三〇、〇〇〇
永隆裕	梁卓民	—	五〇、〇〇〇
聚源永	梁榮一	錢莊	二〇、〇〇〇
德昌粮棧	盛星三	雜貨	三〇、〇〇〇
福興長	王作周	—	二〇、〇〇〇
天盛鴻	李玉忱	雜貨	二〇、〇〇〇
瑞興源	吳鴻春	—	三〇、〇〇〇
育升瑞	姜紀修	—	三〇、〇〇〇
育升慶	—	—	二〇、〇〇〇

第三章　齊々哈爾（黑龍江省省城）

第一節　地　　城

齊々哈爾は黑龍江省の省城にして、奉天及吉林と併稱され東三省に於ける三大政治的中樞要地である

と共に北滿の重鎮であつて土名を卜魁と稱し亦卜奎とも記してゐる、東支鐵道の齊々哈爾驛卽ち昂々溪驛の北方に位置す。

東　經　一二三度九分
北　緯　四七度四分
至昂々溪驛　四五支里（十八哩）
至墨爾根　四八〇支里（一九二哩）
至嫩　江　約五支里（約一哩强）

の地點に在り、東支鐵道本線昂々溪驛とは齊昂輕便鐵道（一米ゲーヂ、延長一八哩）を以て連絡してゐる。

第二節　沿　　革

古、肅愼氏の地にして漢晉では挹婁の地となり、後魏の時始めて黑水部があり、勿吉國七部の一と爲して黑水靺鞨と言ひ唐代に黑水を又十六部に分ち、南北に棚を爲し、南は渤海に接し、西は室韋（今の吉拉林）に接し開元年間其地を黑水州とした、次で黑水府を置き部長を都督としたが、後渤海が盛になつて皆之に役屬したのである。遼が渤海を平げ南部は遼に繫籍し、北部は黑水が其地を擅にしたのであつた。金の時代は蒲與路及肇州の北境と爲り、元時代には開原路に隷して明の始めに都司を設け之を統

領したのである、

清初には索倫、打虎爾の兩部があつて額爾古納河及淨溪黑江之地に居し尋で清の聖祖に歸服したのである。

由來此地は蒙古の一寒村に過ぎなかつたが、康熙二二年都統彭春が露西亞を征したる際墨爾根と共に此地に築城し同三三年黑龍江火器營を置き同三三年將軍府を墨爾根より移し鎮守として以來本省の首府となり漸次省城としての繁榮を來し今日に至つたのである。

清末には官制を改めて巡撫を置き黑水廳を設け宣統元年には龍江府に陞格し民國革命新政府は更に都督府を設けて本省の首府と定め、民國二年三月府を廢して龍江縣を設置したのである。

叙上の如く此地は政治上の重要地であるは勿論、商業も亦殷盛にして、全省中最も樞要の位置に在る府城は古の難水、今の諾尼江、卽ち嫩江の水利を擁扼して遠く北方の上游に位する舊本省の首なりし墨爾根城に通じ四通八達の要衝を占めてゐる。

斯の如く本市は支那最北の政治的重要地であるが故に督軍公署以下本省重要の大官は皆此所に駐在するのである。明治三十八年末日支北京協約に依り開放せられ外國貿易場と定められたのである、日本領事館及滿鐵公所在り、最近又勞農露國領事館（革命前迄は露國領事館存在す）が開設せられた。

第三節　市街の概況及都勢

齊々哈爾市街は平々坦々たる曠原に建設され、南北約三十町、東西約十八町、大小西門及北東南の五門を有し內外の二城に分れ、外城は不規則に造られたる普通の土城にして、內城は黑煉瓦を以て築かれ高さ丈餘、幅七、八尺周圍二四町の方城にして東西南北の四門が設けられ俗に磚城と稱する。內城は官衙の所在地にして此の中に督辨公署、省長公署、政務廳、實業廳、財政廳、電報電話局及陸軍監獄等總ての官衙が置かれ、旗人及官吏が主に居住してゐる。

東門外は人家稠密なれど商賈は少く不規則なる街路で五街に分れ其東端は薪、柴市場にして每朝附近の村民が蝟集し柴、薪の取引が行はれる。

北門外は大黑河街道にして民家稍々整頓するも面積は東門外に及ばずして多く官吏、富豪が居住する。

西門外は數十步にして直ちに廣漠たる原野に連り遠く嫩江を望む。

南門外は南門大街と稱し市中商業の中心をなし、大小の商賈櫛比し街路整然省城の繁榮は此處に集る其の西南には財神廟街ありて南門大街に次ぐ殷盛を示し日本居留民の大部分は此處に居住す。滿鐵公所も此街にあり、財神廟街の西北にある龍沙公園は境域廣く樹木繁茂し雅房其間に點在し、春夏秋此處に曳杖する者多く省城唯一の遊覽地である。尙ほ公園の西南一帶の地域は外國人の居留地として豫定せられたる所謂商埠地なるも外人の居を構ふる者無く唯、日本領事館、支那の交涉署及東支昂々溪驛に通ずる輕便鐵道驛が領事館の東方數町の地點に在るに過ぎない。

市街及附近一帶は砂層である爲め南大街通りと財神廟街の外は車馬往行する毎に砂塵蒙々と立ち込み風の日等は黃塵萬丈實に咫尺を辨ぜざる狀態である。

古來黑龍江省は支那の一寶庫として物產に富むも、人智未だ啓けざると施設亦宜しきを得ず、交通機關の不備、警備機關の不完全等種々の原因に依り天惠の物產を死藏する事多く農產、畜產を除けば他は殆んど見る可きものもない、砂金採集業（黑龍江沿岸地方も一時有望視せられたるも、馬賊の跳梁等に依り現在は振はない。省城附近は地味曹達分を含み農耕に適せず、只附近の原野より牧草、嫩江より魚類其他蔬菜類を出すに過ぎない。故に現在は省城よりの輸出品と稱す可きものは光づ無に近く輸入品としては、雜穀、雜貨、洋品、棉糸布、絹緞、石炭等である、（別項商業參照）が尙冬季奥地（黑河、墨爾根等）に供給す可き物資の輸入も相當の額に達する。

之を要するに齊々哈爾の現在は附近に物產少きと東支鐵道との連絡不便なると奥地の人口稀薄なる事等よりして物資需給の商業關係僅少なるが爲め商業都市としての發達は非常に幼稚にして唯、政治及軍事上の中心地としての市街に過ぎないが、近き將來洮昂鐵道が省城まで延長せられたる曉、從來東支鐵道安達驛に吸收せられたる拜泉、克山附近の穀物が此地に出廻るに至れば、北滿農產物の一大市場となる可く從つて之に附隨する工業の發達、金融業者、特產商、及其他大商店の進出等種々の原因に依り將來は哈爾濱に次ぐの盛況を招來すべしと豫想されてゐる。

第四節　人口、（大正十五年九月三十日現在）

國籍	戶數	男	女	計
日本人 內地人	四一	五九	七〇	一二九
日本人 朝鮮人	八	一六	一七	三三
支那人	一〇、一九六	三六、九四七	一九、一二七	五六、〇七四
露國人	—	—	—	三〇
計	一〇、二四五	三七、〇二二	一九、二一四	五六、二六六

但し支那人側人口數は支那警察調査によるも甚だ不確實にして一說には十萬とも稱され、七、八萬見當ならんか。

第五節　官公衙

第一款　日本側

日本帝國領事館、滿鐵齊々哈爾公所、日本人居留民會

第二款　露國側

農勞露國領事館、東支鐵道（露支合辨）商業部出張所

第三款　支那側

督軍公署（保安副司令部）、第二十九師司令部、騎兵第十二團、砲兵第一團、歩兵第二團、憲兵第三營、陸軍々官養成所、國防籌辦所、軍醫院、軍用被服廠、軍械廠

省長公署、財政廳、政務廳、教育廳、實業廳、高等審判廳、高等檢察廳、全省警務處、地方審判廳

全省警察廳、外交部特派交涉署、全省清鄉局、森林局、全省游擊隊警務處、採金局、全省警察傳習所、烟酒事務局、龍江縣警察所、郵政局、龍江道尹公署、電報局、龍江縣公署、電話局、龍江徵收局、東三省無線電台分台、省教育會、齊昂鐵路公司、廣信公司、廣信公司電燈廠、蒙旗事務所、黑龍江總商會、黑龍江省省議會、農事試驗所、林業試驗所

第六節　金融並通貨

第一款　金融機關

機關名稱	開設	代表者	預金	貸出	備考
廣信公司	光緒三一年	張興仁	—	—	
中國銀行支店	民國三年六月	曹文熊	大洋 二五〇、〇〇〇元	大洋 七〇〇、〇〇〇元	紙幣發行、一般銀行業其他別項一般銀行業及金庫事務
交通銀行支店	民國五年	王大鎧	三〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	仝
東三省官銀號支店	民國十二年十月	張世昌	七〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	仝
黑龍江省儲蓄會	民國十年五月	馬子都	資本金 三、〇〇〇、〇〇〇元	拂込 八〇〇、〇〇〇元	金融、油坊、糧棧、當舗
中國銀號	民國十三年	馮寛	資本金 二五〇、〇〇〇元	拂込全額	金融、糧棧、爲替
錢舗	—	—	—	—	貨幣買賣、兩替等約十二ケ所あり
當舗	—	—	—	—	質屋業にして廣信公司經營のもの一あり、計約千ケ所あり

此の外、東北、富奎、微信等の儲蓄會があるも内容は不明である。

第二款　廣信公司

省城に於て最大勢力を有する金融機關である齊々哈爾廣信公司は光緒三十一年黑龍江省巡撫程德全の發起に基き蒙古土地開墾と商事振興に對する金融運轉を目的として設立されたもので、組織は官商合辦資本金は銀五十一萬二千三百兩とし之を五千株に分ち官は二千株を商は三千株を引受けて之が設立を見兼て官帖を發行した。然るに時恰も接壤蒙古の開放（北郭爾羅斯旗）に當り一獲千金の夢想に驅られた る官商は大いに荒地の買占を企畫し公司經營の衝に當るものも亦之を有利の事業として盛に放資せしが事業進展の齟齬に依り殆ど官帖回收の術なく、加ふるに省の財政困難は遂に該公司を利用して官帖の濫發に依り一時の彌縫策を講ずるの餘儀なきに至つた。其の結果發行の官帖は三千萬吊に達し、準備の正貨約五百五十萬兩の不足を來し信用は忽ちに失墜し、最初一兩に對し二吊五百文の公定相場も、民國五六年の交には管内蒙匪の跳梁と支那軍隊の不穩事件突發等により吉林官帖に比するも尚六、七割低廉を現出して以來多年不詳の歴史を續繼し來りしが前省長畢桂芳の上申にて該省の紊乱せる財政を整理し、

幣制を劃一す可く官銀號をして大洋票數萬元を發行せしめ、其後漸次民資を償還し、同八年更に黑龍江官銀號を合併して現在では純粹の官營となつたのである。

同公司は紙幣發行權を有し金融機關として活動する外採鑛、製粉、製油、燒鍋、皮莊、質、船舶、電燈業等各種事業を經營し、江省內樞要なる地方には勿論、哈爾濱、奉天、營口、山海關、天津、上海、方面にまで手廣く活動して居る、（哈爾濱に於ける華商聯號調査表參照）

第三款　通貨

現在省城內に於ける流通貨幣と種別は次の如くである。

名稱	發行處	種別	摘要
官帖	廣信公司	一吊、二吊、三吊、五吊、十吊、五十吊、百吊	現在江省內一般日常雜貨の標準として使用せらる
小洋票	黑龍江官銀行	一角、二角、十角、五元、一〇元	元一般標準貨として用られ無準備金にて乱發せし爲め混乱を來し新に發行せず
銅元票	仝	銅元五枚、一〇枚、二〇枚、三〇枚	小洋の補助貨として發行せられ銅元五枚は銅貨五枚を以て交換せられたるも目下流通せらるゝ一種にして六枚を以て官帖一吊と交換せらる
大滿兌券	廣信公司	一元、五元、一〇元	小洋票を回收する目的を以て發行せられたるものにして上海現銀と爲替取組を爲し得る奉天大洋建のものにて一種の爲替券である
小滿兌券	仝	一角、二角	拾貳角を以て大滿兌券一元と交換せらる
現大洋票	東三省官銀號、中國、交通、邊業、各銀行及廣信公司	一角、二角、五角、一元、五元、一〇元	一般法貨として對外取引に使用せらる

第七節　保險

保險會社名	代理店名	契約件數	大洋金額
帝國水火保險	寶山永洋品店	二〇	一五、〇〇〇元
先施水火保險	同記洋品店	三〇	四〇〇、〇〇〇
聯保水火保險	仝	二〇	一七〇、〇〇〇
晉隆水火保險	王成章	一〇	二〇〇、〇〇〇
大正生命保險	日商大豊洋行	三四	六〇、〇〇〇

第八節　工業說

第一款　概

省城に於ける工業は今尙ほ發達極めて幼稚で、二、三を除く外は多く農商業を兼營する手工的操業であつて何れも省城並に近縣地方へ供給するに過ぎざる小規模のものである、殊に主要工業の原料たる克山、墨爾根方面の大豆及小麥の大部分が安達方面へ搬出される爲め斯業は何等發達を來さず、僅かに附近の需要を充すに過ぎない。嘗て旺盛を極めたる、驢馬を使役する舊式磨坊は年々減少しつゝある傾向を示してゐる、羊毛を原料とするフエルト工場も大規模のものは無いが個人經營のものは數十戸あり、一ケ年の製產高、防寒靴約三十萬足、其他防寒帽子、毡子製品は舖蓋條毡、（寢具用）及び、褥席炕毯、（炕床用）等地方需要高に應じて製產され該工場の所在地附近は輕鬆作業の弦音が、遠近に響き渡つてゐる。

又燐寸業は漸次發展して市場需用の大部分を供給した外東支沿線各地、（南部線迄）も供給してゐる。

附記、富拉爾基には火酒釀造所がある外に官營の黑龍江軍用被服廠及軍機廠、小銃彈製造所等がある。

主なる工業を示せば次の如くである。

種類	商號	資本金	代表者	設立年月日	從事員	能力
油坊	庶信油坊（機械）	大洋 一二〇、〇〇〇	周永盛	民國十一年九月	二五名	一日豆粕五〇〇枚
仝	義順永（仝）	六〇、〇〇〇	張義臣	民國十四年春	二一	仝 二〇〇枚
仝	德豐（仝）	三〇、〇〇〇	石端五	民國一四年春	一八	仝 二五〇枚
仝	同意（仝）	一〇、〇〇〇	唐壁軒	仝 一四年春	一〇	仝 三〇〇枚
仝	裕發慶舊式）	一、〇〇〇	王義臣	仝 一三年	—	仝 四五〇枚
仝	振昌（仝）	二、〇〇〇	林從實	仝 一四年秋	—	—
製粉	德增火磨	一〇〇、〇〇〇	艾雪山	仝 一二年春	二〇	一日粉 二〇〇袋
燐寸	魯昌火柴公司	一二〇、〇〇〇	—	仝 九年	一四〇	年 一萬箱

電燈廠は別に記す。

其他家庭工業の主なるものは次の如くである。

工場名	數	備考
支那紙製造所	一	—
皮革工場	三〇	粗製靴皮
蠟燭製造	六	—
粉條子製造	一二	製品の一部分は滿洲里海拉爾方面へ向けらる。

毡子及管子製造	一二	粗製フエルト敷物及防寒靴	
木工場	四	家具類	
煉瓦工場	三〇	粗黑煉瓦	一
製粉業	三〇		

第二款　廣信電燈廠

設立　宣統二年

經營者　廣信公司、現在廠長周永盛

資本金　開設當時五萬兩であつたが後露貨一〇萬留に改め更に其後時々增資せるものゝ如く詳細は不明である。

設備　發動機三、汽機三、發電機三

約束燈	一六燭光換算	約一五、〇〇〇個
計量燈	仝	約五、〇〇〇個
外燈	仝	約一、〇〇〇個
料金	一〇燭光 大洋一、五〇	一六燭光 一、九〇　二五燭光 二、五〇
	五〇燭光 四、一〇	一〇〇燭光 五、九〇　一キロワット 四二

從事員　約六十名

第三款　魯昌火柴工廠

所在地　齊々哈爾東團胡同

組織　合資組織

資本金　（公稱資本）現大洋拾貳萬元

拂込資本　全額拂込

設立　民國九年

◎設備　（當地廣信電燈廠より電力を導き工場器械を操作するも、馬力等は不明である）。

投資額　イ、用地及建築費　現大洋　四萬余元

ロ、各種器械及器具　仝　五萬余元

生產能力　一日四拾余箱生產（但し一箱は小型拾ケ入一包のも二四〇包入）

用地　六百五十六平方丈

家屋　九拾余間

機械類別　イ、軸木製造器　ロ、軸木整頓器　ハ、軸木頭塗油器　ニ、燐尻塗布器
ホ、乾燥器　ヘ、箱用薄木製作具　ト、仕上り品移送盤

◎原料

木材類　使用木材は本省產白楊を用ひ從來主として札公司より直接購入し數量不明なるも金額大洋壹萬元內外なりと云ふ。

藥品類　藥品類は日本大阪より購入す每年二回人を大阪に派し直接之を輸入しつゝある時に少許のものは臨時郵送の法による事あり其額每年現大洋參萬元內外なりと云ふ。

◎製造概況

方法　イ、先つ大なる木材は人力にて凡尺余に鋸引したる上器械にて長さ軸木程、厚一寸位に鋸引し更に製作器に掛け抽木を製作す。

ロ、製作せられたる軸木は整頓器にて取揃へ塗油器を用ひて其額部に一度蠟油を塗布し次て塗布器に掛けて燐泥を塗布す。

ハ、燐泥施工後乾燥器に掛け乾燥後別に製作せるマッチ箱に各女工をして分入し更に之を上包し出售に至る。

ニ、燐寸箱は製作具（鉋）を用ひて薄葉木を作り折曲けたる後商標を貼付け側面には膠を用ひて石粉を塗布し發火に供す、これらは悉く女工の手によりて製作せらる。

作業日數　イ、每日午前六時より午后四時まで作業
ロ、每月一日十五日及陰曆新年端午節中秋節休業

使用工　イ、人員　百四拾余名
男（十二才以上　）約　四〇名
女（十二才以上　三十五六才まで）約一〇〇名

ロ、賃銀
男　器械工　十五元—二〇元以下　普通工　十元—一五元以下
女　箱張　千ケに付官吊　十二吊
軸木詰　百五十ケに付仝　二吊　小箱一〇ケ一包二〇包每　官吊　一吊

◎販賣狀況

販路　黑龍江全省並に吉林に及ぶ（東支東部線及南部線に至る）

方法　滿洲里、黑河及海拉爾の三ケ所に支店を設け尙各地に委托店を作り代賣せしむ。

數量　一ケ年壹萬余箱（一箱は小箱拾ケ包二百四十包入）

金額　年額約十萬元位

品種別　黃燐々寸は民國十三年末までにて製造を禁止し專ら在庫品の販賣に從事する。
安全燐寸。民國十四年以降の製造に係り現在は全く斯品のみである。

顧客　大多數は支那人なるも滿洲里、海拉爾及黑河在住露人其他日本人間にも使用せらる。

取引慣習　公司に於ては一箱以下の數量の販賣を爲さず但し製造の際の不良品は小量と雖も適宜賣捌きつゝあり。

◎銘柄及種類

黃燐小箱型（現在は生產せず、在庫品を賣出す）
安全小箱型、レッテル、二種、梅蘭芳、雙地球

◎其他

本公司は當地豪商數名の合辦にして民國九年秋設立に係り工場用器具器械の半數は營口に於て仕入半數は大阪より直接購入したり。
江省に於ては他に競爭品なきと販路廣範の爲相當需用あり可成の利潤を見るものゝ如くである。

第九節　商業

第一款　概說

此地一帶は土地磽确であつて輸出品としての重要物資の產出を見るに至らない。食糧品としての雜穀類（小麥、大豆、高粱、粟）は拜泉、呼蘭、哈爾濱、阿什河及伯都納等の各市場移より入し、其他の雜貨と共に之を更に各近縣地方へ再移出する、當地の發達は政治的及軍事的の必要上人爲的の施設であつて他に都會成立の要素を具備せず、從つて其需要に應ずる爲め各種の移入品は小賣せられる程度の取引で多大の物資を有する大集散地としての商業地とは自ら其の趣を異にするものがある、從つて商業は單に中繼取引に過ぎず、物產としては獸皮及畜產を擧げる位である、往時は西南蒙古地方との貿易關門として一箇年牛馬の取引高數萬頭の多きに上りし事あるも近年は漸次海拉爾に奪はれて、昔日の俤なく、從つて同方面への移出物資も漸く齊々哈爾を離るゝに至つたが洮昂鐵路の開通せる今日、將來の發盛に曙光を認めらるゝに至つた。

省城の主なる商舖は約一千二百戶餘あるが、百貨店式大規模の商賈なく南大街商舖の過半は、ショー、ウインド及店內販賣で、組織は幾分歐米式である　而して洋反物商及洋品店の代表的商店は左の如きものがある。

綢緞、洋反物、洋雜貨類。和發祥、全成長、瑞興號、東昌盛。

洋品類、化粧品、香料其他。天和鴻、雙和吳、錦章號、章記貨店、寶山永、吳聚源、慶太福、永隆源會和公、意誠和、瑞吳昌。

外人の商賈は邦人が經營する藥種雜貨商八、洋服一の外露人商店（時計雜貨一）を數ふるに過ぎない、（尙詳細は別表商店一覽表參照）

正確を期し難きも省城一ヶ年の貨物輸出入額は左の如くである。（東支鐵道調査）

第二款　輸移出品、（單位布度）

品名	數量	品名	數量
穀物	六四八、三四三	西瓜及甜瓜	一一、〇九七
魚類	六六、二九〇	肉類	一〇、六一三
火酒	二二、三五二	卵	六、八一九
燐寸	若干		

第三款　輸移入品（布度）

品名	數量	品名	數量
穀物	二八八、六九九	石油	三五、〇一二
薪	二八〇、九一〇	支那織物	三一、一五六
壇	一一三、八一六	外國織物	二三、八八〇
石炭	八七、六八〇	乾果	二四、四一八
材木	三六、九八八	鐵製品	二〇、四三一
乾草	二〇、三〇二	硝子類	一〇、二一六
蔘酒	一三、一九五	植物豆	九、八五七
煙草	一二、七四七	果物	八、六五四
麻袋	一一、五〇〇	酒精	八、二四三
砂糖	一、一四二二	棉花類	六、六八四

第四款　穀類及其生產品　齊々哈爾物價表（大正十四年十月廿五日相場）

品名	單位	價額	品名	單位	價額
小蔘（上）	一石	四三、〇〇元	包米	一石	一三、〇〇元
仝（中）	仝	三八、〇〇	粳粟	仝	一等 五〇、〇〇〇 二等 四〇、〇〇〇 三等 三六、〇〇〇
仝（下）	仝	三六、〇〇	糯粟	仝	二五、〇〇

大麥	仝	一四、五〇	玄粟
燕麥	仝	一七、〇〇	陸稻
蕎麥	仝	一七、〇〇	菀豆
大豆	仝	二三、〇〇	芝麻
本地白麵（一等）	一斤	一〇	豆油
仝（二等）	仝	、九	豆餅
大麻子	一石	一八、〇〇	高粱
大麻子油	一斤	二〇	白米
メリケン粉二號	一布度入一袋	二、六〇	紅小豆
仝三號	仝	三、四〇	綠豆
仝四號	仝	三、〇〇	糯米

仝	一箱（二カン入）	九、〇〇	仝
仝	一箱（二カン入）	一五、〇〇	仝
仝		三〇、〇〇	仝
仝	一	一九	仝
仝	一石	三	仝
仝		一三、〇〇	仝
仝		六〇、〇〇	仝
仝		二五、〇〇	仝
仝		二四、〇〇	仝
仝		四五、〇〇	仝

皮革獸毛及其生產品現在價目

品名	種別	單位	價格	品名	種別	單位	價格
牛皮	乾	一斤	五〇	緬羊皮		一枚	二、〇〇
仝	生	仝	二五	春羊皮		仝	一、五〇
牡牛皮	乾	仝	五〇	秋羊皮		一枚	一、五〇
仝	生	仝	二五	仔羊皮		仝	一、五〇
馬皮		一枚	三、〇〇	羊毛		一斤	四〇
馬鬃		一斤	三〇	牛乳		一ビール瓶本	一〇
馬毛		仝	ナシ	パタ		一フント	一、五〇
馬尾		仝	一、〇〇				

燃料及鐵製品

撫順炭	切込	一布度	三八
仝	塊	同	四〇
仝	粉	同	ナシ
知多炭	切込	同	ナシ
仝	塊（形狀大）	同	三八
同	粉	同	ナシ
札賚諾爾炭	切込	同	ナシ
札賚諾爾炭	塊（形上大）	同	二五
同	粉	同	ナシ

石油	老牌	（一箱二カン入）	七、一〇
同	鷹牌	（一箱二カン入）	六、七〇
木炭	白（無煙）		三、七五
同	黑（有煙）		三、〇〇
薪		一クーポ	四〇、〇〇
柳條子		一車	五、九〇
鐵板	ブリキ	一枚白黑	一、三五
亞鉛板	トタン板	一枚小大	一、〇〇
針金	太細	一斤	一七
		同	三〇

化粧品（金票建）

レート白粉大瓶	一ケ	六五	
同洗粉	一袋	一五	
同粉白粉	一ケ	三〇	
同クリーム家庭用大瓶	同	一六〇	

食料品、趣好品

白魚	一斤	九〇	鶏
柱魚	同	六〇	雛
家鴨	一羽	八五	ソース大（イカリ印）
鶏卵	百ケ	二、三〇	同小
白菜	百斤	二、六〇	コンデンスミクル
ホーレン草	同	二、六〇	味之素
葱	同	二、〇〇	同小
馬鈴薯	同	一、六〇	寒天
木耳（キクラゲ）	一斤	一、〇〇	片栗
レートフード	一ケ	大七〇	
同水白粉	同	五〇	
同浮石鹼	同	三〇	
同三輪	同	三五	

粉蓮根	百匁	七五	晒船
乾蓮根	百匁	七五	晒船
梅干	瓶入	七〇	筍鑵詰
蒟蒻粉	同	三、〇〇	鮑
味噌	一貫目	一、六〇	饅
蟹鑵詰	一ケ	一、一〇	櫻正宗
フキ	同	一、一〇	蜂印葡萄酒
カード	同	一、二〇	キリンビール
牛肉	一斤	一五	櫻
豚肉	同	二〇	朝日
羊肉	同	二〇	ミツヤ印サイダ
紹興酒	一壺	七、四〇	サツポロビール
條	一斤	二〇	イリコ
鐵線（太）	一斤	二〇	鱗
同（細）	同	二五	麻
鐵板	一枚	一、二〇	タオル
寸	一包	四	
袋	一枚	五〇	
枚	一枚	二、八〇	

亞鉛枚	同	二、八〇

第五款　商業機關

第一項　商務會

名稱　黑龍江總商會
設立　光緒三十二年四月
會長　傅崙
副會長　馮寬
會董（議員）　三〇名
會員數　九〇〇余名
役員任期　二年
會費　賣上高の一、五％

第二項　同業組合

齊黑路自動車共公組合
設立　民國十三年十月
組合員數　一五名
組合費　收入の百分の五

第六款　商店

第一項　日本人職業調（大正十五年十月末現在）

營業科目	屋號	經營者	所在地
特產商	茂林洋行	重林晩成	省城永安里街
質商	義興當	濱崎清人	南門外
仝	金山當	杉浦爾郎	永安里大街
仝	義順當	中林サミ	仝
銃砲火藥、自轉車	東成號	森田用三郎	仝
醫師	慈惠醫院	山本清	南門外
仝	仝	山口吉野	仝
齒科醫	一	平田大吉	永安里大街
賣藥藥種	富山堂本店	稻野ミツ	南門外

賣藥藥種	富山堂支店	吉野豐雄	南門外
仝	起生堂	水田熊八	仝
綿糸布商	水田洋行	水田熊八	仝
藥種賣藥	開生堂	上田金之助	永安里大街
仝	大豐洋行	塚嶋順豊	仝
仝	森田兄弟藥房	森田關男	永安里街
賣藥、時計	三大寺東亞堂	三大寺信太郎	永安里大街
石炭商	德昌號	佐藤德三郎	仝
牛馬皮、獸骨	滿蒙殖產公司	加藤善次郎	南門外
雜貨商	義泰洋行	千賀博愛	仝
仝	益田東亞洋行	益田義治	永安里大街
寫眞館	加來寫眞館	加來惟政	永安里街
料理店	丹粹樓	益田ミッ	永安里大街
仝	朝日樓	鈴木喜十郎	永安里街
	日濟館	村田市松	仝
旅館	龍沙旅館	益田龜吉	永安里大街
仝	朝日旅館	鈴木縣一郎	永安里街
撞球場	龍江倶樂部	仝	仝
洋服店	大吉洋行	青柳吉松	永安里大街
仝	朝日洋服店	江口清	仝
仝	丸辰洋服店	野口辰雄	仝
時計商	大松號	大松敬之助	永安里街
產婆	一	加來ミチ	仝

第二項　支那側商店、（民國十五年十月現在）

營業科目	商號	執事人	資本主	資本金	所在地
錢業	同和興	張邦治	同麗堂、白德興堂	一五、〇〇〇元	南大街
仝	寶豐玉	王鶴年	廉萬和堂、王寶善堂	一五、〇〇〇	仝
仝	中大銀號	傅友森	積德堂外六名	一五〇、〇〇〇	仝
仝	益發合	於志清	長春益發合の支店	五〇、〇〇〇	仝

仝	天興福	孟益亭	普泉堂外四名	一五、〇〇〇
仝	乾德隆	張百祥	公益長	六、〇〇〇
質商	惠濟當	姚濬升	廣信公司	六〇、〇〇〇
仝	利民當	岳聚茂	公和厚	二二、五〇〇
仝	世隆當	郝佩泉	武種德堂	一二、〇〇〇
仝	義利當	趙潤堂	義利永	三〇、〇〇〇
仝	德新當	岳聚茂	利民堂	二〇、〇〇〇
仝	天寶當	牛贊淵	果嵩臣	一三、七五〇
仝	義生當	呂廣華	永和發	五、〇〇〇
糧業	端興東	傅瑞山	傅端山外四名	七〇〇、〇〇〇
仝	湧巨廣	邵子生	葛向亭外六名	六〇〇、〇〇〇
仝	廣興糧	田荆三	福全齋	一五、〇〇〇
仝	義增永	王相臣	王相臣	七、〇〇〇
仝	天興合	李稚軒	高子厚	六〇〇、〇〇〇
仝	裕興東	盧軒亭	王來純	六〇〇、〇〇〇

仝	仝	仝	仝	仝
興隆街	南大街	東酒樓胡同	萬和胡同	維新街
東二道街	坤順街	雷家胡同	正陽街	永安街
正陽街	芙蓉街	青雲路		

糧業	同盛魁	韓茂成	韓茂成	四八〇、〇〇〇
仝	義盛和	王子興	古玉堂	一八〇、〇〇〇
仝	天興和	閆清義		七五、〇〇〇
仝	福來德	韓永豐		四、〇〇〇元
仝	德盛興	張雲亭		三、〇〇〇
仝	福興全	呂景堂		四、〇〇〇
仝	瑞發興	高輯五		一〇、〇〇〇
仝	文玉全	唐璧軒		三〇、〇〇〇
仝	元興德	羅晏亭		一六、〇〇〇
仝	德增火磨	艾雲山		一〇〇、〇〇〇
仝	永發成	王子久		四〇〇、〇〇〇吊
仝	德興和	徐季紳		六〇〇、〇〇〇
仝	增順興	陳永年		八八〇、〇〇〇
仝	永玉和	張玉安		三〇〇、〇〇〇
仝	裕泰永	孫俊卿		一、〇〇〇、〇〇〇

正陽街	仝
東城壕	東四道街
李家胡同	良民胡同
東大街	天合胡同
鍋房胡同	龍門街
德茂胡同	榮富胡同
東榮市街	北門外
東城壕	

糧業	萬興隆	潘增福	一	四〇〇、〇〇〇吊
仝	萬順湧	李長安	一	二〇〇、〇〇〇
仝	天增盛	劉華山	一	一〇〇、〇〇〇
仝	義合永	李士珍	一	二四〇、〇〇〇
仝	福泉興	曲奎豐	一	一六〇、〇〇〇
仝	三合永	傅小廉	一	三、三七〇元
仝	德玉成	張玉生	一	二〇〇、〇〇〇吊
仝	同合義	陳聘知	一	七〇〇、〇〇〇
仝	振大油坊	李瑞亭	一	三、〇〇〇元
仝	和發慶	張壽天	一	九、〇〇〇
仝	和發長	陳海亭	一	三、五〇〇
仝	廣順成	張義	一	一八〇、〇〇〇吊
仝	萬合永	張富春	一	三六〇、〇〇〇
仝	德順永	凌耀堂	一	一五九、〇〇〇
仝	永義東	劉鏞	一	五〇〇、〇〇〇

永盛胡同	戲園子胡同	正陽街	全福胡同	正陽街
仝	玉和胡同	雙興胡同	西城壕	東大街
仝	永盛胡同	東柴市街	仝	

糧業	和興永	李國順	一	一、〇〇〇、〇〇〇吊
仝	長盛東	桑振嶺	一	七五〇、〇〇〇
仝	德慶福	郝守堃	一	一、〇〇〇、〇〇〇
仝	義盛永	許進財	一	五八〇、〇〇〇
仝	永義德	劉向陽	一	六、〇〇〇元
仝	世昌東	王允中	一	一七〇、〇〇〇吊
仝	興隆泉	殷肅齋	一	四八〇、〇〇〇
仝	福增棧	張遇明	一	八〇〇、〇〇〇
仝	德和盛	許有讓	一	一一〇、〇〇〇
仝	增盛公	劉鎮卿	一	五、三〇〇元
仝	萬增店	孟佐卿	一	一二、〇〇〇
仝	裕泰店	郝致中	一	七〇〇、〇〇〇吊
仝	聚源永	王玉天	一	一九、五〇〇元
仝	祥聚泰	趙敬之	一	三五〇、〇〇〇吊
仝	謙亨店	艾相賢	一	九、〇〇〇元

（客棧馬店行）

仝	正陽街	嫩江春胡同	裕泰胡同	海山胡同
仝	東城壕	北街	正陽街	嫩江春胡同
仝	裕泰胡同	海山胡同	滙源胡同	賢良胡同

仝	德生福	張聚生	金生堂、德益堂	三五〇、〇〇〇吊	天豐胡同
仝	聚農商店	張鳴遠	張鳴遠、福德堂	二〇〇、〇〇〇	東菜市街
仝	聚發店	劉殿富	張　義	二〇〇、〇〇〇	唐家胡同
仝	鴻來店	王會芳	恩厚堂	一〇、〇〇〇	廣源胡同
仝	廣益棧	李廣仁	李廣仁	一〇〇、〇〇〇	沈家胡同
仝	義和成	韓　順	韓　順	一、〇〇〇元	泰西胡同
仝	同發店	陳永利	陳永利	一、〇〇〇	春發胡同
仝	全發店	崔輯五	崔輯五	一、〇〇〇	馬神廟胡同
仝	全盛店	崔全盛	崔全盛	一、〇〇〇	北二道胡同
仝	東興店	蔺卿秀	蔺卿秀	四〇、〇〇〇吊	東菜市胡同
仝	雙發店	劉善棠	劉善棠	三〇、〇〇〇	世昌胡同
仝	寶盛店	劉壽山	劉壽山、康寶生	二〇、〇〇〇	順家胡同
仝	升發店	黃滿生	黃滿生	三〇、〇〇〇	北極胡同
仝	永興店	劉乃仁	劉乃仁	一〇〇、〇〇〇	永安胡同
仝	恒發店	果榮春	林桂山	五〇〇、〇〇〇	体商胡同

仝	德興店	張永春	張永春	一五〇、〇〇〇吊	正陽大街
仝	瑞發棧	高瑞海	同　人	五〇〇、〇〇〇	軍效胡同
仝	和順店	周占元	郭少連	一〇〇、〇〇〇	東菜市胡同
仝	東昇店	馬雲春	郭景田	三〇〇、〇〇〇	仝
仝	祥發店	關子峯	關子峯	一二〇、〇〇〇	仝
仝	元盛店	姜魁元	姜奎元	一、〇〇〇元	仝
仝	瑞發店	白永瑞	白永瑞	三〇、〇〇〇吊	世昌胡同
仝	福升店	劉致福	劉致福	二〇、〇〇〇	天豐胡同
藥舖	濟衆葯房	韓潤春	韓潤春	一、〇〇〇元	西城壕
同	興順誠	楊壁如		銀　五〇〇兩	仝
仝	春生堂	張品卿	同　人	一、〇〇〇元	仝
仝	中州葯房	劉煥章	楊壁如	一、〇〇〇	東城壕
仝	積發興	李發榮	李發榮	一、〇〇〇	仝
仝	德興隆	楊悅芳	吉發和	一、〇〇〇	正陽街
仝	博愛葯房	韓星樓	韓星樓	一、〇〇〇	財神廟大街

藥舖	華安藥房	閏永陞	一、〇〇〇元	財神廟大街
仝	同發厚	張保元	一、〇〇〇元	東城壕
仝	同興堂	崔云廷	一、〇〇〇元	單家胡同
仝	退恩堂	高玉麟	一、〇〇〇	進化街
仝	景山藥房	郭景山	一、〇〇〇	東門外
仝	天德和	王殿舉	一、〇〇〇	仝
仝	天德堂	張豐軒	一、〇〇〇	仝
仝	天一堂	牛玉章	一、〇〇〇	仝
仝	長發福	楊世珍	一、〇〇〇	仝
仝	福聚東	程景春	一、〇〇〇	仝
仝	義和堂	楊瑞廷	一、〇〇〇元	興隆街
仝	濟生藥室	崔堃堂	一、〇〇〇	嫩江春胡同
仝	衛生藥房	陳占峯	一、〇〇〇	永安街
仝	俊峯藥房	石俊峯	仝	仝
仝	海源堂	崔海廷	仝	東城壕

藥舖	協力堂	李春慶	一、〇〇〇元	仝
仝	連三藥房	佟連三	六〇、〇〇〇吊	財神廟街
仝	康濟藥房	查仲鐸	一、〇〇〇元	永安里
仝	華記藥房	吳青陽	仝	仝
仝	德臣	左樹滋	仝	芙蓉街
仝	和順昌	宋治臣	仝	仝
仝	天豐慶	賈廷珍	仝	正陽街
仝	長發興	楊世珍	仝	仝
仝	福興堂	趙月清	仝	教育會西街
仝	德善堂	徐煥章	仝	斗母胡同
仝	子安堂	竇子安	仝	禮義胡同
仝	立志堂	周秀生	仝	斗母胡同
仝	春和堂	劉雨亭	仝	東酒樓胡同
仝	長發祥	顧智臣	一、五〇〇元	南大街
仝	錦和昌	李廷槐	銀　二、一〇〇兩	仝

藥舖	吉發和	楊春世	宋起陸	銀　一、二〇〇兩	南大街
仝	萬育堂	高德馨	奉天、萬育堂	奉票　一〇、〇〇〇元	東城壕
仝	裕厚堂	王翰屏	陸靜波	小洋　一一、〇〇〇	南大街
仝	太古堂	劉喜亭	劉喜亭	一、〇〇〇	啓明街
雜貨	恒昌隆	曹世英	曹晁云	銀　三、〇〇〇兩	德增胡同
仝	同德泰	張雨池	玉善堂	五、〇〇〇元	南大街
仝	恒源利	孟滙海	王洪來	八、〇〇〇	仝
仝	和發祥	徐維三	吉林、和發祥	五、〇〇〇	仝
仝	義信成	蔣可如	積善堂	奉票　一〇、〇〇〇	仝
仝	信元慶	王殿清	奉天、信元慶	仝　四、〇〇〇	東酒樓胡同
仝	義增德	劉新山	西安堂	一八、〇〇〇吊	西酒樓胡同
仝	會巨源	王廷貴	王廷貴	二四〇、〇〇〇	仝
仝	德長茂	喬景陽	劉煥章	三二、〇〇〇	萬祥街
材木商	富記木廠	任富	—	三〇〇、〇〇〇	花園街
仝	玉發公	聶希賢	—	二、五〇〇元	仝
材木商	和發公	程永文	—	三五〇、〇〇〇吊	仝
仝	同記木廠	張德貴	—	四二〇、〇〇〇	仝
仝	通源	丁鴻三	—	四五〇、〇〇〇	永安街
仝	宏興隆	王榮亭	—	八、〇〇〇元	花園街
仝	益增品	壽三	—	二、〇〇〇	西江岸
仝	萬合源	蔣煥章	—	一、〇〇〇	仝
仝	瑞和貫	瑞祥	—	三、〇〇〇	仝

第四章　海拉爾（呼倫）

第一節　位置

海拉爾は東支鐵道西部線にあり。

至哈爾濱　七〇二露里（四六六哩）

至滿洲里　一七五露里（一一七哩）

東經百十九度四十四分、北緯四九度一四分に位し市街の東北南の三面は、海拉爾河及呼倫輝河とに圍繞せられ恰も天然の塹濠を成してゐる。

第二節　沿革

海拉爾は金時代より常に戰爭の中心をなし、呼倫城蒙古人「アルバン、ホト」の所在地であつた。市街の北方に往時塞堡又は城基の跡がある。

清の乾隆八年黑龍江六副都統管區の下に滿洲八旗に準じて旗制を設け十七旗五總管となし、副都統府を海拉爾に置き之を管轄せしめたるも、其後清朝は光緒三十三年巡撫を置き翌三十四年には呼倫道台を設けた。

民國元年呼倫貝爾統管勝福は露國の暗助を籍りて呼倫貝爾の自治を宣し自ら副都統となり地方行政に任した、然るに民國九年一月、民國政府は大總統令を以て此の自治を取消し呼倫貝爾善後事宜督辨公署を置き更に民國十四年三月臨時執政令を以て呼倫道と改め道尹を置き今日に及んだのである。

古來此地は北陲の要鎭として重きを爲し、往時清朝が衛戍を置きたる所以も此處にある、古來當地の名稱は呼倫貝爾にして土人は一般に今尙ほ此の名稱を呼んでゐる、海拉爾は其の別名にして三十余年前迄は北蒙古の一部落にして僅かに總管衙門を置かれたる政治的治區に過ぎなかつたが、東支鐵道の開通に因り漸次發達し明治三十八年日、支北京條約に基き開市場となり、且つ、蒙古貿易の樞要地として最近市街の膨脹と商業の殷賑は目覺ましきものがある。

第三節　地勢及概況

市街は東支鐵道附屬地（全面積六、五〇〇晌地、我約三千二百五十町歩）を新市街と稱し、鐵道北側は東支從業員の宿舍町にして南側は商業地區である。又舊市街即ち海拉爾城內及城外商埠地は鐵道附屬地の南方約十町に位し城外商埠地は土磚造で整然たる區劃を有し南北に通ずる街路二條東西に通ずる街路一條より成り南北約五町にして、中央大街の両端には土磚木樓より成る頹傾の城門が殘存してゐる。最も殷盛を極むるのは城內及東門外にして街路の両側に商賈櫛比し、市況は一般に、活氣がある、商舗は大小數百軒あり總て蒙古人の必需品にして、綢緞類、綿布類、衣料、麻子、麥粉、粟、煙草、砂糖、磚茶、燒酒の飲食品、鐵器、農具、佛具等を販賣する。殊に蒙古旅行を聯想するカマボコ馬車（轎車）の作品と大半の商舗が蒙古文字の看板を掲げて居るのが目に立つ。

城の北郊外に出づれば、一望千里の曠野にして遙か東南に丘陵長蛇の如く起伏し伊敏河の流も亦銀蛇の如くである、西方には甘珠爾廟（蒙古喇嘛教の壽寧寺、毎年一回定期市が開催さる）への通路開け圓塔に以たる道標がある、市街の北側には海拉爾公園ありて小高き砂丘に天然の松樹が隨所に繁茂し、宛然日本海濱を偲ぶに充分なる風緻がある。

土塗高塀で圍繞する宏大なる蒙古副都統公署、灰色煉瓦建の比較的大規模の關帝廟及孔子廟がある、共に海拉爾城市街の遠望を飾るに充分で、又茫洋たる曠原の隨所には、牛、馬、羊が放牧され、乘馬にて自由に走驅する蒙古土人あり、密集する駱駝隊等皆雄大なる背景である。

鐵道附屬地即ち新市街は多く石造、煉瓦造、及木造家屋にして、海拉爾驛を中心として南北に區劃して居る、其北部は鐵道從事員宿舍及軍隊營舍等の官設建築物ありて戸數約百數十戸、人口約一千、凡て鐵道關係の露人のみである、南部は商埠地にして戸數約千數百戸人口は一萬を超へ大商舗としては食料雜貨、洋反物商、永發魁、福泰永等あり、又英米人の出張所ありて家畜穀物等の買收に從事するものもある、而して市況は總て潑溂たる感がある。

又、市外東部を流るゝ伊敏河の西岸には東鐵洗毛場、牛酪工場、オクーロフ皮革工場、酒釀所、スンガリースキー製粉所等の工場ありて南岸は露人避難民部落を形成して居る、百余戸の半永久的木造バラック式家屋建築され數百人の避難民居住し尙滿洲里方面より移住し來る者もありて益々增加の傾向を示し家屋の拂底を告ぐるの狀態なりと謂ふ。

第四節　人口

國籍	大正十四年 人口	大正十五年 戸數	男	女	計
日本人（內地人）	七〇	二〇	二〇	三四	五四
同（朝鮮人）	—	—	—	—	五
露國人（特區）	約五、〇〇〇	九三五	—	—	四、〇七〇
同（城內）		八	一二	九	二一
蒙古人（特區）	約一、五〇〇	—	—	—	約一、五〇〇
同（城內）	約一八、〇〇〇	四六六	七七八	五六一	四、三六六
支那人（特區）	—	一五	三、八〇五	三六	二、〇五五
同（城內）	約一八、〇〇〇	四六六	七七八	五六一	四、三六六
其他	—	—	九	五	一四
計	二四、五七〇	二、二三一	九	一	約一、五〇〇
					一二、一八〇

備考、以上の外近郷に於て農業に從事せる鮮人約數十名あるも詳かならず、右は支那側警察の調査に依るも實數は更に增加するものと推せらる。

第五節　官公衙（民國十五年九月二十六日現在海拉爾城內）

呼倫貝爾鎭守使署	鎭守使	張明九	新街
呼倫貝爾副都統公署	副都統	貴福	舊城
呼倫道尹公署	道尹	趙仲仁	新街
呼倫警察廳	廳長	郎官普	舊城
呼倫縣公署	縣知事	張毓珣	仝
呼倫警察第一分署	署長	趙岐山	仝

呼倫貝爾徵收局	局長	許吉耀	舊城
呼倫貝爾官醫院	院長	劉昇芝	仝
東省特別區域地方審判廳第二分庭	推事	劉毓俊	鐵路北
仝　檢察所	檢察官	孫蓉昌	仝
仝　第三看守所	所官	梁雲芳	仝
東省特別區第二區警察第一分署	署長	曲升雲	仝
海拉爾地畝局	局長	李春華	新市街
海拉爾市政分局	局長	金榮椿	仝
海拉爾警察處	段長	鄧某	新市街

第六節　金融並に通貨

第一款　金融

金融機關名	開設	代表者
中國銀行	一九二一年	齊宗元
東三省官銀號		吳某
露亞銀行	一九一三	露人
遠東銀行	一九二四	同
實業公司		李棟朝
廣信公司		李棟朝
呼倫貝爾儲蓄會	民國十一年	李棟朝
蒙古銀行		資本金 大洋一二〇、〇〇〇元 貸出 一六〇、〇〇〇元

海拉爾に於ける金融機關としては右の如きものがあるが、東三省官銀號は支那商人一般に最も多く利用されてゐる、又廣信公司は齊々哈爾の支店にして其の發行する紙幣は市中に最も多く流通し一般銀行業の外鹽專賣、製塩、電氣事業、等に主力を注いでゐる。

蒙古銀行は兌換準備金五、〇〇〇元を備へ蒙古紙幣及銀貨（何れも蒙古語）を發行し蒙古貿易に對する唯一の機關である、換算率は現大洋一元に對し、八〇仙乃至一九〇仙である。

露亞銀行及ダリバンクの各支店は、預金、貸付、及爲替等一般銀行業務を取扱ひ主に露人及外人間に於て之を利用する。

第二款　通貨

一般市場の通貨は大洋元及廣信公司鈔票にして其他蒙古貨幣及日貨（鮮銀券）も通用（賣買）するも鮮銀

券は日本人及一部の露支人間に使用さるゝに過ぎざれば換算率は甚だ不利である。

第七節　工業概說

第一款

海拉爾に於ける工業としては畜産關係のものが最多である。卽ち諸種の皮革、羊毛、革等の原料潤澤にして水利の便多く、水質極めて良好である爲め工場は年々增加し、益々擴張發展の氣勢を示してゐる。工場として主なるものは洗毛五、皮革一、牛酪一、製粉二、酒釀一、電燈一、にして此の外バタ製造所腸詰製造所及城內には小規模の支那人經營に係る土式皮革工場五、燒鍋二、フエルト製造所、防寒皮革外套製作場等支那人個人經營工業も相當に發達してゐる。

第二款　羊毛洗毛所

羊毛の洗毛場には、東鐵經營、ウイドルマン、フォルブス、カブラン、ブラウイ等にして東鐵經營の外は皆人力洗毛である。

東鐵洗毛場

所在地　鐵道線路南側伊敏河の西岸

設立　一九二三年九月營業開始

作業能力　一晝夜千布度

經營方法　發送貨物羊毛の委托、洗毛、壓搾、包裝及發送等を引受ける。

設備　羊毛貯藏所數棟、分類所、壓搾所、洗毛所、水壓所、蒸氣動力（六馬力）

洗毛料金

一、洗毛及色別

イ、冷水洗毛　一布度　大洋　、二五

汚穢の程度に依り　、三三—、三五

洗毛を了りたるものも　同

ロ、熱湯洗毛　同　、二五

完全に洗毛したるもの　同　、四五

二、壓搾（包裝は荷主負擔）

イ、人力を以てするもの　同　、〇四

ロ、水力に依るもの　同　、一五

三、羊毛保管料

四日迄無料、五日以上一ヶ月一布度　大洋　、〇二

四、洗毛されたる羊毛の色別種類

特雜色、特黑色、特白色、白色、黑色、雜色、其他、の七種である。

右洗毛場は東支鐵道獸醫部の管轄に屬し、鐵道引込線を有し直接工場内倉庫より貨物の積卸をなす等規模宏大である、場内廣場には柱を打込み之に架空線を施し、洗滌せる羊毛を此架空線に掛けて乾燥せしめ塊狀のものは地上にて乾燥するのである。

冷水洗滌設備及洗滌乾燥法

冷水洗滌設備は河中に小屋を建て、筏を組み其傍に槽を置き、槽の底は網目とし河水の流通に便にする、洗滌法は原料を筏の傍に裝置しある大桶に移し、此處にて能く洗滌したる後筏に移し勞働者の足踏を經て更に第二槽に入れ、第一槽と同じ方法を繰返す、順次斯の如くにして最後に流水自由なる櫛樣の容器に入れ清淨洗滌を行ひたる後架空線に掛け乾燥するのである。乾燥後羊毛の品質及色合等によりて分類し、次で壓搾器を以て七布度乃至十三布度の塊として之を梱包にし針金を以て縛り又は特別の袋に納めて包裝をする、洗滌期は六月より九月末までにして其他は一般に繰業を中止するのである。

第三款　オクーロフ皮革工場

經營者　露人オクーロフ個人經營

所在地　海拉爾河東鐵々橋下流

設立　一九一九年

製革能力　一ケ年皮革二五〇、〇〇〇枚

工場敷地　六〇〇平方サージェン

建坪　三〇〇平方サーヂェン

事業及一年の製產高（大正十四年度）

事業	從事員	製產高	販賣先
製革部	一〇〇人	五、〇〇〇足	合作公司
毛皮外套製造部	八〇	三、〇〇〇足	東支コーペラチープ
フエルト製造部	四〇	四、〇〇〇枚	ウオロンツオフ
薄地毛氈製造部	一〇〇	六、〇〇〇足	ウイノグローフ
		五、〇〇〇枚	ゴロワーノフ
		一、五〇〇枚	哈市輸出
			東支鐵道
		靴（長短）	
		防寒靴	
		毛皮外套	
		毛皮手袋	
		フエルト敷物	

第四款　製粉所

經營者　露人オクーロフ氏（前記皮革工場所有者）

設立　一九二二年

機械　蒸氣製粉機五十馬力

製産力　一日小麥一千布度（一貨車）

資本金　大洋五〇〇、〇〇〇元

右の外哈市スンガリスキー製粉と合辨にてスンガリスキー製粉工場を新設し一九二七年完成一日二千布度を生産すといふも内容は不明である。

第五款　牛酪製造所

同工場は往時オムスク、コルチヤク政府時代の大藏大臣たりしタスキンの經營に係り製品の大半は哈爾濱市場に搬出し好評を拍したるも原料不足にて（ウオロンツオーフ、バター製造所に奪はる）民國十四年以來作業を中止してゐる。

第六款　ウオロンツウオーフ酒醸所（四合興酒精公司）

同酒醸所は最近新設せられたるものであるが、地方の需要甚大に且つ將來蒙古へ移出の可能性あり。益々有望なる工場である。

第七款　市營屠獸場

所在地　海拉爾河鐵橋畔

販路　南北滿一帶市場、浦塩、尼市、哈府、アムール洲、武市、黑河等

屠殺能力　一ヶ月牛四〇〇頭、羊一、〇〇〇頭

屠殺料金　牡牛一頭大洋一、七〇　牝牛一頭一、三〇　羊一頭三〇

建物は煉瓦建にして屋内には屠獸檢疫所がある、床は全部コンクリート張りにして屋外には多數の繫獸場あり、設備は完全したるものである。

屠殺の最も盛なる時期は冬期にして凍肉として前記各市場に輸送されて居る。

第八款　電燈會社（廣信電燈廠）

設立　一九一三年

經營者　廣信公司

資本金　大洋一六〇、〇〇〇元

設備　獨乙製ロコモビル四台、同發電機三台

發電能力　一六一キロワット

總發電量　一ヶ年約二五〇、〇〇〇キロワット

約束燈　十六燭換算、七、五〇〇個

從事員　二一名

電燈料金　一六燭　大洋　一、六〇　二五燭　二、五〇　五〇燭　五、〇〇　一キロワット、四五

該電燈會社は一九一三年黑龍鐵道聯隊に依り建設され同聯隊撤退後露人カメリノフ氏の經營に依り民國八年大洋五萬元にて廣信公司が買收し其後增資をなして今日に至つたものである。

第八節　商業

第一款　概說

海拉爾に於ける商業の生命は蒙古の特產物たる家畜類及び畜產品類の輸出取引並に蒙古貿易にある、而して右兩者を除いては後に殘る何物もなしといふも過言には非ざる可し。

發送貨物

今試に驛發送貨物數量表を見るに其の大部分は牛、馬、羊、綿羊、皮革、生皮、獸脂、毛皮、肉類、羊毛、バター、牛酪等の家畜及畜產品類にして之に次いでは建築材、及キャベツ、馬齡薯等の野菜類にして其他は天然曹達及鹽等であるが、近來穀類（主として小麥）も相當出廻るに至つた。（別項牧畜參照）

到著貨物

到著貨物の大宗は、穀物及石炭にして之に次では、茶、火酒及酒精、豆油、砂糖、煙草、乾草、建築材等が其の主なるものである、其他は、薪、燐寸、陶器、金物類、豚、及其他の日用諸雜貨類である。其のうち石炭（札賚諾爾炭）及建築材等が滿洲里方面より來るもの、外諸雜貨類は凡て哈爾濱方面より仕入れらる。

而して此等輸入貨物は其の一部が土地の需要に充つるのみにして多くは蒙古貿易品として仕向けらるのである。（別項蒙古貿易參照）蒙古貿易品中の最多である棉布を始めとして、其他諸雜貨類の貨物統計表に登らざるは不思議に考へられる所であるがこれは東支鐵道の運賃關係に依るものにして昂々溪に於ける商業の部參照あり度い。

第二款　商務會

海拉爾華商會（新市街）

設立　民國五年

會長　楊式嶷

副會長　王恒福

會董（議員）　十七名

會員　五十名

役員任期　三ヶ年

會費、月額　大洋五、〇〇　二、〇〇　一、〇〇の三級に分つ。

海拉爾商會（城內）

開設　約二十年前
會長　李璽榮
會董（議員）　十二名
會員　約三百名
役員任期　三ヶ年
會費、毎月　大洋五、〇〇　二、〇〇　一、〇〇

第三欵　商店

第一項　日本人營業別表（大正十五年九月二十六日現在）

營業科目	屋號	經營者	所在地
料理屋	富山樓	佐藤熊吉	東門外
仝兼旅館	松江樓	松本ミカ	北門外
仝	花月樓	山本ヨネ	東門外
醬油釀造業	—	降旗來街	仝
質商	—	田上虎雄	仝
寫眞	石橋寫眞館	石橋新太郎	新街
藥種商	—	山崎ワキ	東門外
仝	芙蓉堂	李泰化	仝
仝兼雜貨	天容堂	濱島正和	仝
仝	高木商店	高木萬次郎	仝
醫師	日本醫院	上田兵馬	新市街
雜貨兼蒙古貿易	—	岩重春一	東門外

第二項　支那側商店

營業科目	名稱	執事人	資本	所在地
當鋪	大盛當	李璽榮	大洋一萬元	舊城
仝	寶豐當	孫鶴亭	五千元	仝
仝	安業當	關福廷	五千元	仝

當	舖	六合當	魏占元	大洋五千元
燒鍋	永大和	李璽榮	六千元	〃
〃	德源長	傅顯廷	六千元	〃
雜貨舖	聚長成	王世賢	四千元	〃
〃	大盛魁	李璽榮	一萬元	〃
〃	義和源	申瑞齊	五千元	〃
〃	大利號	王實	九千元	〃
〃	晉盛魁	崔玉嵐	一萬五千元	〃
〃	大生利	陳貴章	三千元	〃
〃	天增合	宋元祥	六千元	〃
〃	聚發號	王鳳桐	三千元	〃
〃	裕升和	張槐	五千元	〃
〃	復義長	李光燦	一萬元	〃
〃	鼎恒升	任秀賢	四千元	〃
〃	聚源	霍漢臣	八千元	〃

雜貨舖	福生利	郭起	六千元	舊城
〃	福聚宏	李枝華	七千四百元	〃
〃	德河號	張建中	三千元	〃
〃	廣盛和	蔡永切	八千四百元	〃
〃	廣愼恒	董貴	六千五百元	〃
〃	永生長	閻守業	六千元	〃
〃	復聚誠	陳士德	五千元	〃
〃	大來金	韓少卿	六千元	〃
〃	恒昌隆	張有岐	一千元	〃
〃	恒泰興	趙伯宗	二千元	〃
〃	信和誠	張乾見	貳千元	〃
〃	恒升晉	李富林	貳千元	〃
〃	瑞興泰	武哲臣	貳千元	〃
〃	晉義長	劉順仁	四千元	〃
〃	萬億源	周惠亭	三千五百元	〃

皮莊	興記	吳敬齋	大洋五千五百元	舊城
〃	正泰興	鮑正甫	貳千元	〃
〃	新昌號	王惠卿	四千元	〃
〃	德發永	李潤九	貳千元	〃
〃	魁記	周魁三	壹千元	〃
金店	義通厚	武振英	三千五百元	〃
〃	益泰昌	賈玉榮	貳千八百元	〃
〃	天成玉	白富仁	貳千元	〃
〃	同興金店	徐德忠	貳千元	〃
藥舖	洪順堂	王永忠	貳千元	〃
〃	天一堂	李介軒	貳千元	〃
當舖	興盛長	關雲龍	—	新市街
錢業	久安號	賈秀亭	—	〃
雜貨	洪順和	楊式嶷	—	〃
〃	福太永	王恒福	—	〃
雜貨	洪順棧	王鳴孔	—	新市街
〃	永和成	采國臣	—	〃
〃	福昌源	董汝翼	—	〃
〃	福和祥	呂維炯	—	〃
〃	合興隆	韓修和	—	〃
〃	同源泰	李陽熙	—	〃
〃	福生厚	王恒元	—	〃
〃	增盛茂	徐士佳	—	〃
〃	大盛魁	田承全	—	〃
〃	洪泰昌	勝金三	—	〃
〃	東豐昌	徐愼堂	—	〃
〃	通益號	安成九	—	〃
〃	震泰昶	王瑤廷	—	〃

第四款　外商の活躍

米國系のブラウン及びカブラン、英國食糧品輸出會社（鷄鴨公司）及多數の露商等がある、日本商

人にて根底ある活動をして居るものは無いが只僅かに滿蒙殖產會社が社員を派遣して牛骨の買付輸送をやる位のものにして實に微々たるものである。英國食糧品輸出會社は數年前には工場を設置し居りしも近來は生畜を購入し哈爾濱へ鐵道で輸送して居る、一九二五年には甘珠爾廟歲市及び其の前後に數萬頭の生羊を購入し、一萬頭を哈爾濱に輸送し、他は追牧の儘張家口に出して天津へ送つた。

同社は每年相當の生牛、生羊を購入輸送しつゝある模樣である、カプラン及びブラウン氏は自營の洗毛所をも有し、殊に甘殊爾廟歲市には常に參加し、平素は自己の自動車を庫倫方面へ運轉し物資の交易を行ひ對蒙貿易業者中最も根底ある活躍者で、每年亞米利加へ羊毛十萬布度、駱駝毛八百布度、羊皮四萬枚を輸出するとの事である、又露商ではガーニン商會、ツルヒン、スモリヤンスキー商會、カタエフ、ザゴローフスキー、アクチユーリン等は古くより活動し居る著名なる對蒙貿易業者である、又革命後はチエントル、ソユーズ（中央購買組合）が盛んに活躍し始めて居る。

第五款　蒙古貿易

對蒙貿易に關しては未開地だけに一般統計的の發表は至難にして果して幾何の貿易年額に上るや其推測も困難の狀態で、只少數なる斯業專問家が想像し得る程度のものである。

蒙古と言へば誰人もが直感的に弘安四年に我が南海を襲擊し當時の人心を恐怖せしめたる元冠か或はゴビ大沙漠に平和なる駱駝の隊商を腦裡に微かに然も漠然と想像せしめられる其の蒙古の面積は北緯二十七度より五十三度、東經八十五度より百二十七度に及び、東西相距ること二千二百九十六哩南北一千〇二十五哩、實に百四十八萬方哩と稱せられ、支那の本土より廣き事十餘萬哩に及ぶと言ふ膨大なる範圍であつて、之を內外の二蒙古に區劃してある。

其の大部分は調査未了の地域と稱する事が出來るので、仔細に調査の歩を進めて系統的に研究すれば無限の富を發掘し驚歎するが如き事實を發見するであろうとは蓋し何人も首肯する所である。

而して蒙古に於ける牧畜の著名なる事は既に認知する所。其他藥草、天然曹達、鹽等の產あり、此の天賦の大富源も其の大半は未だ沒却されて居る有樣である、即ち之等の原料を採取利用し土人を指導開發生活の向上を計らば將來は有望なる原料の供給地なるは言を俟たざる所である。

一部露人の調査に依れば全外蒙古の外國貿易額は一ケ年の輸入八千五百萬圓又は一億五千萬圓に達するとも稱されて居るが實際額は不詳である、海拉爾、滿洲里に於ける取引高は一ケ年一千萬圓に及ぶ此地に集散する物資の原產地は呼倫貝爾一帶地方及車臣汗である、對蒙輸移出品は佛壇、佛具、木箱（衣服其他家具入）鞍、其他馬具、靴、帽子、鐵鍋、水入、鐵架、火著及其の他の鐵製品、桶、杓子、木碗、其他日用具、燒酒、菓子、素麵、氷砂糖、煙草、磚茶、石鹼、金屬裝飾品、（釦其他裝身具）綢緞、絹紬類で其大半は支那內地製品である、綿布、玩具、レース糸、カタン糸、は大半日本製品なるも多少外國製品も輸入されて居る此の外後貝加爾州ウエルフネウーヂンスク市よりキャフタ經由で庫倫方面へ

勞農露國製品でレーニングラード製各種鐵器類、ウェルフネウージンスク工場製硝子、莫斯科製羅紗、撚絲製綿布、及五色燐寸等が大量輸入販賣されて其の商權勢力は實に侮り難しとの事で在る。

蒙古人の生活は總てが簡易であるだけ從來自己購入需用品等も餘り選擇せず、多少の古物或は汚點あるも更に意に介せず、石鹸其の他の小間物は中身商品の良否に係らず單に箱入の外觀美なるものにあらざれば彼等の意に投せず販賣困難である。

一般布類の販賣は物差を用ひず、織物其物の巾を以つて賣買の標準と定めて其の巾（巾の平方）を蒙古人はアマンと稱してゐる。

一般の蒙古内地へ齎すところの商品を擧ぐれば大体次の樣な物である。

種類	摘要
各種綢緞	（赤、黃、桃、紫等の彩色摸樣入一般支那人使用のもの）
天鵞絨	（大巾、中巾、にして黑色の物多し）
各種綿布	（赤、桃、紫、綠、淺黃、藍等の色物及白色）
各種絲針	（裁縫用色絲、裁縫用針）
リボン	（衣服裝飾用）
洋手拭	（蒙古人は多く頭を包み、頸卷等に用ふ）
哈達	（禮儀用、綿布日本の綾織薄物又は平壁の六匁程度の薄物にて手巾の如き物である）
佑衣	（綿入袷、單物各樣）
棉花	（被服用）
皮革製及布製靴	（上等品は摸樣入普通品は黑無地である）
燒酒	（所謂高粱酒）
粉條子	（豆素麵）
機麵	（素麵）
麵粉	（小麥粉）
豆油、麻油、香油、	（調味用乃至燈油）
鼻煙及容器	（喫煙草）
葉煙草及卷煙草	（卷煙草は一般的には未だ吸煙されない）
煙草入	（支那製荷包、刺繡を施せる物を好む）
錢入	（支那製で刺繡入りである）
煙管	（高價なるものは吸口に翡翠等を用ひて居るが小にして長さ一尺長きものは二尺

餘に及んで居る）

各種紙（開拓地方にて支那式家屋に居住する蒙古人が壁又は窓に貼る紙である）

紅白紙（紅紙は正月節句等に緣喜すき字を書するに用ひ又白紙は經文其他を書するに用ふ）

各種佛具（祭佛用）

砂糖（氷砂糖、白、赤、黑砂糖）

各種支那菓子（月餅、芝麻餅、芙蓉餅等）

茶（普通支那茶、磚茶、細茶）

婦人粧飾用品各種（最も高價なるは遊牧地方の既婚婦人の用ふる頭飾りで、珊瑚、銀片等を鏤め上等品は百圓内外に評價されるものがある）

鐵器（炊事具、大工具等）

銅器（炊事具等）

刄物類（刀、ナイフ、刄物類各種）

燐寸（赤、黃、紫、綠、青五色入大箱一般使用燐寸小箱の約五倍大である）

蠟燭及線香

麥粉

馬鞍及附屬具

粳米（上流者にて食用する）

粟（帶皮、精白両樣）

糜子米（常食用）

尙蒙古人需要品中の大宗たる綿布に就て如何なる種類の物が輸入され居るかを示せば略左の如き品である。

種類	布幅	長サ	斤量	商標
花旗布（粗布）	三六吋	四〇ヤード	一二封度乃至六封度	龍頭、九龍、藍魚、卷酉、雙鶯、二甲、三兎、牛頭
打蓮布（綾木綿）	二、九、三〇吋	四〇同	一三仝	雙鶯、龍頭、鳳凰、西王母、星象、李太白、立馬、眞龍、二魚、雙鷄
坎布（細綾木綿）	三〇吋內外	三〇同	一〇封度乃至八仝	藍魚、塔象、鷄卵、三鹿頭、大鹿角
大尺巾（土巾）	平均一八吋	二一同	三斤三分	監紗、三輪、福壽
細布（生金巾）	三六吋	四〇同	七封度乃至十二封度	紅玉、得勝、團龍、團鹿、團鳳
細布	三六吋	四〇同	八封度より一二仝	軍人、單人槍、雙人槍、人刀、人槍
愛國布（細絲織）	同	同		
清水布（同）	同	同		

套布（同　）	同	同	

第六　歇　甘爾珠廟歲市

甘珠廟は今より百四十餘年前清朝高宗帝神廟を建立して西藏文の甘珠爾經典百八冊を賜ふ、此經典の名に因みて廟を甘珠爾廟と命名されたのに起因する、同廟は呼倫貝爾新巴爾虎廂正黃白旗内に在りて滿洲里を距る東南方二百露里（邦里五十里餘）海拉爾よりは西南方百七十六露里（邦里四十四里餘）に位し、曠漠たる高原中に叢然たる廟棟、莊嚴なる高甍、輪奐結構を極めたる廟宇が茫漠たる大砂漠中に異彩を放ちて居るのである。毎年秋季舊曆八月六日より十五日迄喇嘛の大法會を執行し内外蒙古の各旗よりの禮拜に參集する蒙人數千人に及び所謂甘珠爾歲市は此の法會の行はるゝ時に際し開催されるのである百餘年前北京、多倫諾爾方面の支那商人は參詣を兼ね各種の商品を携へ多倫諾爾街道より入り來り、蒙古人の齎す家畜及其の原料品と交換をし居たのである、然るに七十餘年前に至り廟の周圍で歲市の形式に由り取引行はるゝに至り漸次盛大に赴くと共に同地の汚損せらるゝ事甚だしきため約四十年前より現在の地點たる廟を距る西北約一里の原野中に其の歲市を移したのである。

東鐵の敷設せらるゝ以前は此甘珠爾歲市は北蒙古唯一の貨物集散地で、巴爾虎地方及喀爾喀一帶の蒙古人は此の市場に集り、其の牽き來りし家畜を以つて一年中に要する日要品と交換したので、當時歲市の取引額は數百萬圓に達し又牛馬の集散高も數萬頭に上つたのであるが、東鐵が開通して海拉爾及滿洲里の取引が發達するに隨ひ、同歲市の取引額並に家畜の集散高が共に著しく減少し、尙又蒙古人向の雜貨類の如きも隨時鐵道で輸送せられ或は各王旗内に有する露支商人の店舗或は派遣店員にて販賣するので往年の如く一年中の日用品を一時に購入する必要も無くなりし爲め取引高の減少は蓋し時勢の趨勢で止むを得ない。

本歲市に於ける兩三年間の家畜取引高を示せば左の如くである。

種類	一九二二年 取引數	平均相場	取引高	一九二三年 取引數	平均相場	取引高
牛	三、〇〇〇頭	七〇元	二一〇、〇〇〇元	二、〇〇〇頭	六五元	一三〇、〇〇〇元
馬	二、〇〇〇頭	六〇元	一二〇、〇〇〇元	三、〇〇〇頭	五五元	一六五、〇〇〇元
羊	二〇、〇〇〇頭	五元	一〇〇、〇〇〇元	二、五〇〇頭	五元	一二、五〇〇元
合計	二五、〇〇〇頭		四三〇、〇〇〇元	七、五〇〇頭		三〇七、五〇〇元

種類	一九二四年 取引數	平均相場	取引高	一九二五年 取引數	平均相場	取引高
牛	三、四〇〇頭	六四元	二一七、六〇〇元	一、五〇〇頭	七〇元	一〇五、〇〇〇元

馬	一、七〇〇頭	五八元	九八、六〇〇元	二、〇〇〇頭	六〇元	一二〇、〇〇〇元
羊	一一、〇〇〇頭	五元	五五、〇〇〇元	四、〇〇〇頭	五元	二〇、〇〇〇元
合計	一六、一〇〇頭		三七一、二〇〇元	七、五〇〇頭		二四五、〇〇〇元

一九二六年甘珠爾廟交易狀況表

來集商人　六百餘名

來集蒙古人　四百餘名

來集馬　三千餘頭

來集牛　一千五百頭

來集羊　一萬餘頭

各馬店來集共購馬　一千匹

備考、軍馬として購入されたるもの約一千二百餘頭

第七款　海拉爾驛輸出入貨物統計表

	一九一三	一九一四	一九一五	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二三	一九二四
普通便扱普通貨物發送高	三一六、四四二	二四三、六三一	四二六、三五〇	三四六、二二九	三六七、三三三	二四四、四四七	二六四、八一四	六〇八、九一六
其中								
食料雜貨	九七一	二、〇二四	一〇五	四三一	一三、九五二	一三、七五八	三、〇六〇	一、五二〇
建築材	一、六三二	一四六	一、九七〇	一、八二一	三、八二二	一〇、三一〇	三、六二六	二二七、六二六
薪	—	—	—	二五、三八一	二、五五九	五〇〇	—	—
皮革及生皮	一四、九三三	一三、七六八	二五、六四〇	一五、六九四	一八、一三五	一二、一〇六	五、五三四	一二、〇六八
獸脂類	一、八三七	一、八四〇	二、四〇二	七、一八四	六、六四四	七、七九七	三、一二八	二、七〇三
毛皮	一一、〇二九	一三、二三三	二二、九一三	七、九五五	一二、七八八	一三、〇二六	一七、一二二	一六、八九三
肉類	五〇、六〇二	五七、七八一	四三、七五八	八一、六四三	一二八、八五三	三七、四二八	四七、三五七	二六、〇一七
穀物	一八、〇〇八	一三、二一〇	一二、九四六	二七、五八八	六二、七六四	一〇、一〇一	二一、〇四〇	一八六、四七三
羊毛	二七、三二三	二七、三八七	四九、〇三六	四五、五七一	三八、七二九	八四、九三〇	七六、五一四	八六、八九一
野菜類	八八、九六六	四六、〇七七	二二六、一二一	四三、七〇八	四六、七四五	二〇、〇七四	四二、二五六	一六、三二〇
乾草及藁	四六、六六三	二二、六三三	九九、〇四九	一七、三二六	六、三〇八	五、一二五	三、一八〇	六九三
家畜發送高	一〇、一五一	一三、一〇九	七、三二一	一三、八五六	八、七七三	四二、五八二	五一、四八〇	四五、五二七
其中								
牛	三、一四六	六、八八〇	三、一九四	四、一二三	三、三六六	六、一三六	三、二八六	三、五九六
羊	六、七四二	五、九七四	三、五六六	八、六三六	四、六四四	三、五五一	四五、九三九	四一、五四四
綿羊	二五〇	三九四	五六六	九八五	六四二	五、八八四	一、九七二	四二四
馬仔馬	八四四、四五二	八二〇、六七一	八六六、七二六	一、〇三一、二五六	一、〇二一、二二〇	一、四九七、一八九	一、三〇一、五九五	一、二二七、三一七
普通便扱普通貨物到着高	四二八、九六三	四六四、三五四	三七四、二八八	四一八、四五四	三五三、三八六	五六三、四〇五	四五六、六四三	三五三、四四五
其中								
穀物								

茶	二、四二二	二、六二四	二、〇六三	三〇、三一九	一六、一九七	三九、六七六	三二、一三一	三八、八三一
磚茶	一八、四九八	二〇、二九四	一一、七七九	一二、三七五	一	八、七四三	二、一六三	五、七五〇
火酒キリヨール	一三、四六六	一九、五九〇	二、三三八	一九、一三七	一五、四六八	一〇九、五〇〇	一七、四六〇	三、六六四
薪	九四、八三〇	六八、九一〇	一〇六、四四一	一八、八一二	一五、四六九	一一、三二一	四、四四七	三、五七八
工場製品	一四、六四七	一三、二二七	九、七三六	一六、六四二	一九、三二六	一〇、九九二	一三、七三三	二二、一五六
種子油	七、〇九〇	一〇、一三三	八、二〇〇	六、一〇六	一三、七六八	一五、二二六	一四、二二三	一七、六三五
砂糖	一六、四三二	一四、八二五	二、四六三	二、四六三	二、四六三	一四、六一一	一七、二八〇	一九、七三三
酒精	一六、三七四	九、八九七	一〇、八九三	九八〇	三、八一四	一九、五六三	一七、八六五	一六、七一四
煙草及其製品	一三、九五六	一一、五〇六	一三、〇一六	一六、六六九	二、二一三	七五、九〇九	四六、九七一	五二、四六七
乾草及藁	一三、九〇二	二六、一三八	一四、六九九	一〇二、七四四	七〇、九一七	七五、九〇九	一五四七、〇一六	六〇八、七一五
石炭	七八、七五二	五一、七三一	一三三、四四五	三六、一〇四	一四七、九六一	四九九、二五四	一五四七、〇一六	六〇八、七一五
建築材	一、〇一五	五八〇	七、四四八	九、〇〇九	二、二一六	一七、九九六	九、七七三	三、八六七
家畜到着高	一六八	九七	一七七	六九九	六八七	五四〇	七六五	五八七
其中								
豚	一〇五	六九	二一五	二八三	六四一	四四九	七五一	五二三

第九節　牧畜

第一款　概說

牧畜は實に市財政上に於ける大宗にして收入の大半は皆牧業殷盛の賜である。周知の如く牧畜は蒙古の生命にして且又唯一の財産である、而かも該地方は天然の水草が豐饒で地勢牧養に最も適し飼料は勞せずして無限に家畜を放牧し得ると言ふ眞に天與の好牧場を形成して居る、牧畜の盛んなる亦宜なる哉である。

南北滿洲露領沿海州、其他各地方へ同地より家畜肉の輸移出される數量は別表統計表によつて明かなる如く實に漠大で、而かも累年輸出が增加する傾向ある一事は決して輕々しく見逃してはならぬ。殊に日本に取りては必要品の一つであり、且つ毎年日本に輸出せられる青島牛が該地方としては最大限度の輸出をなして居るに係らず、日本内地では尙ほ旦つ不足を訴へ居る現狀であるから、將來最も便利で廉價且つ永久的の供給地を考慮せしめらる秋同地方は最も其好適地と思惟されるのである。（詳細は近く當課より出版さる可き經濟上より見たる呼倫貝爾事情參照）

第五章　滿洲里

第一節　地域

滿洲里は哈爾濱の西々北八七六露里（約二二五邦里内外）東支鐵道の起點にして、露領後貝加爾州に隣接し露支の國境を扼し北緯四九、三五度、東經一一七、二六度に當り市街は四周砂丘を以て圍繞する窪地に在り乍ら海拔六五七、三呎の高地にして東支鐵道附屬地の面積は六千晌（我約四千町歩）あり、滿

洲里停車場は其の中央に位し南部を官衙地區北部を商業地區として居る。

第二節　沿革

此地はもと黑龍江省西北部なる呼倫貝爾の茫漠たる原野であつたが明治三十一年東支鐵道の建設と共に後貝加爾鐵道南部線の終點たると同時に東支鐵道の起點となり、國境地點たる地理的關係上漸次發達し日露戰爭當時露國軍隊と共に多數商民の移住するあり人口頓に增加し更に同戰役後日支滿洲協約により海拉爾と共に外國人の爲めに開放されたのである。露國人は市公共團体を組織したるが、革命騷擾の爲に一時解散せられ明治四十二年町自治制を施行し更に民國十二年五月市に昇格したのである。

支那政府は明治四十二年此地に邊墾分局を置き更に其の翌年露支間の交渉事務を司り且つ地方の開發並に邊防に當らしむる爲め臚濱府を設け知府を置いた、越へて明治四十五年二月總管車和札を統領とする蒙古軍は露國援助の下に來襲し支那官憲を追放して車、自ら此地の統領となり蒙古の獨立を宣し海拉爾蒙古政廳の管轄に歸するに至つた、然るに一九一六年露支會定條件により蒙旗は獨立を取消し呼倫貝爾特別區を設定し海拉爾に善後事宜督辨を置き其の管轄の下に此地に臚濱縣知事を置いた、其後民國十四年三月前記特別區を廢し呼倫道と改め現在は呼倫道尹の管轄に屬す。

日本政府は大正七年西比利亞出兵に件ひ邦人の在留するもの增加したるを以て齊々哈爾領事館の出張所を設け大正九年撤兵と共に同出張所も引揚げたるが、大正十一年六月更に領事館を開設するに至つた。

第三節　人口

國別	大正十四年 男	大正十四年 女	大正十四年 計	大正十五年 戶數	大正十五年 人口
日本人（內地人）	六四	一〇九	一七三	四四	一七三
日本人（朝鮮人）	四	五	九	四	九
支那人	二、五七〇	五三一	三、一〇一	八九二	三、八三五
露國人其他	三、八七四	四、三四五	八、二一九	一、七七六	七、〇五六
計	六、五一二	四、九九〇	一一、五〇二	二、七〇七	一一、〇七三

備考、右統計表は日本民會、日本領事館警察及特區警察の調査に依るものにして日本側は確實なるも露國側は比較的實數に近く支那側は實際の數字は更に增加す可し。

第四節　諸官公衙、（民國十五年九月二十五日現在）

第一欵　日本人側

日本領事館　領事　田中文一郎

日本陸軍駐在武官步兵大尉

日本人居留民會　民會長　富永恭次

佐々木調四郎

第二款　支那側

臚濱縣公署	縣知事　王恩銘
東省鐵路護路軍哈滿司令部	司令　梁忠甲
東北陸軍十八師步兵十五旅	旅長　梁忠甲
陸軍十八師步兵十五旅三十八團	團長　靖國綸
東省特別區第五區警察署	署長　沈崇岱
臚濱徵收局	局長　趙慶斯
東省特別區滿洲里市政分局	局長　桂聯
東省特別區地方審判廳第三分庭	推事　韓德璧
特區地審廳第三分廳檢察所	檢察官　朱廣文
滿洲里郵務局	局長　王中泉
東省鐵路々警第三段警察署	署長　張煥柱
東省特別區滿洲里市自治會	會長　方貽琛
臚濱縣實業局	局長　程廷翰
駐滿洲里呼倫貝爾交涉署	代辦　齊豫肇

郵政局	局長　ラクマン
電報局	局長　田志賢
滿洲里防役醫院	院長　李宴
商務會	會長　趙立堂

第三款　露西亞人及外人側

勞農露國領事館	領事　ゲイツマン
東支鐵道滿洲里驛	驛長　ジエーシコ
滿洲里海關	稅務司代理　ギブス
後貝加爾知多鐵道滿洲里驛	驛長　チチルスキー
勞農露國稅關	稅關長　ルコーヤノフ
滿洲里市役所	市長　サビヨルキン
電燈局	局長　ジダーノフ

第五節　金融並通貨

第一款　金融機關

露亞銀行支店

開設　一九一三年
所在地　二道街
營業科目　不動産担保貸付及預金

廣信公司

開設　一九一九年
所在地　四道街
代表者　（經理）王業卿
營業科目　一般銀行業

滿洲里に於ては廣信公司が最も活動をなし漁場に約五萬元の投資をなし其他商業資金にも多少の投資をなす、又西方ハラノル炭坑の經營もなす。

滿洲里商業銀行

開設　一九二五年
所在地　二道街
代表者　キーシン（ユダヤ人）
營業科目　金融業（株主のみに對する信用貸出し）
資本金　大洋一〇〇、〇〇〇元
內拂込　四〇、〇〇〇元
決算期　毎年六月、十二月の二回
株金　一株五〇元とし內、日本人側にて一八株を所有す。
其他　極東銀行を親銀行とし、日、露、支合辨である。

極東銀行

開設　一九二四年
所在地　頭道街
營業科目　一般銀行業であるが、就中勞農ロシヤの官營事業と關聯し蒙古貿易の投資に力を注ぐ
以上の外日商の質屋三、華商當舗三ありて小口の（千圓以下）貸出しを行ひ中下級人士に對する金融を行ふ。

通貨は大洋銀元を基とし一般市中に於ては江帖（黑龍江省官帖）を使用す、又十數戸の兩替店があつて朝鮮銀行券、勞農貨幣チエルオネツツ及蒙古貨幣等の買賣も行はる。

第六節　保　險

代理店　同仁堂　帝國火災保險

仝　恒盛永　聯泰水火保險、聯保水火保險、金星水火保險、廣恒水火保險

福安水火保險

第七節　倉　庫　業

東支商業部附屬倉庫七棟　面積一七六五露坪市內貿易商殊に畜產物取扱商は其庭內に自家用倉庫を有するも專門的のものはない。

第八節　工　業

滿洲里に於ける工業は附近に原料乏しきと資金潤澤ならず、水利の不便等の原因に依り發達極めて幼稚であるが、主なるものを擧ぐれば、次表の如くである。

工場名	能力	職工數	所在地	代表者	開設	資本金
カタエフ、ゲクブノーフ シメリヨーフ鞣工場	一ヶ年一五萬圓	四〇	ザレーチスキ ポシヨルカ	ニキフローフ シメリヨーフ	一九二二年	—
スリノーフウオツカ工場	一ヶ年　二千圓	一二	二道街	タラススリーノフ	一九〇四	—
サビヨルキン印刷所	同　一萬四千圓	一六	頭道街	アカツアポフ エーポフ	一九二三	一二、〇〇〇元
發電所	一六八 k.w.	四四	三道街	市自治會	一九〇六	一〇〇、〇〇〇元

其他製材工場一、清涼飲料水製造所二あるも何れも小規模である。

燃料としては近距離の地に札賚諾爾炭坑あり、又後貝加爾炭も廉價且つ豐富に輸送し來りて潤澤であるが炭質は何れも良質ならず。

第九節　商　業

第一款　概　說

滿洲里には別に特種の產物無く、工業的施設皆無で、只鐵道に依る對露蒙の輸移出入物資の通過、取次ぎに過ぎない土地柄なるに、然も對露貿易は露國內亂以來、杜絕の狀態なれば市況は死滅同然である、從つて商埠地中央通りには空屋が多く人通りも少く寂寥の感を深からしむ。殊に達賴諾爾の漁類搬入期以外は公設市場は全で廢墟の如く多くは閉店し、市場の前は塵芥載積され人をして不快の念を起さしむ。

只、此の地に於ける商業上の特色として、從前露支國境五十露里の間無稅地帶ありて露領住民が土產物をもたらし此地に來り之を賣り、其の代金を以て工藝品其他必要物品を購入するを常とせるが、其後右地帶は撤廢せられたるも地方人は之に慣れ密輸出入をなすもの增加し、近時國境監視嚴重となるに從ひ

專問に之を職業とするものを生するに至つた、從つて之が爲め市中雜貨店の顧客は市中居住者が約三割にして其他は全部後貝爾方面であるといふ。（別項密輸參照）

而して地方貿易商は此地に事務所及住宅を有し多くは外蒙東部に於て直接營業に從事す、其の事業中心地は此地の西南二八〇露里「サンベイス」（克魯倫）である。

亦最近庫倫との通商關係も著しく增進するに至つた。

第二款　商店

滿洲里に於ける商店は總て約六百戸あるが、其の中酒類食料品店が最も多く、雜貨反物商之に次いで居る。

而して別表商店一覽表に於て明かに示して居る通り大部分は支那商店で、日本商店之に次ぎ、露人及外人の商店は極く僅かである。

但し露商及外商は數に於て少い代りに質に於て見る可きものあり、彼の著名なる哈爾濱の秋林商會の支店を始めとして、アムール商會、ヴイゴダ等可成りの成績を擧げ、一日の賣上高は各々小賣にて約三百圓ありといふ。

此外勞農露國々營貿易部出張所、義勇艦隊出張所ありて札賚諾爾炭と競爭的に知多炭賣込に努力し、露國物產販路の普及に勉め居る樣子である。又外商としては米國スタンダード石油會社の出張所ありて之亦相當に商權擴張に腐心して居つたが、最近勞農露國石油シンヂゲートの進出を見たるを以て將來或は之が爲め驅逐さるゝやも圖られない。

次に支那商の代表的商舗は隆泰號、榮茂盛、興盛昌等であるが、何れも大資本のものでなく只數に於て各露商に對抗して居る。

日商に至つては遺憾乍ら之等に對抗す可き商舗は無いが藥舗としては哈爾濱井上藥房の支店、食料雜貨商に朝日洋行あり、其他、池田商店、協進洋行等は皆相當に活躍して居る。

第一項　滿洲里日本人營業調（大正十五年九月二十日現在）

營業科目	屋號	經營者	所在地
貿易商	大來行	林田孝明	三道街
漁業	巴商會	佐々木調四郎	三道街
入齒師		平島七助	二道街
醫師		成田十郎	仝
醫師		宮木熊平	仝

新聞通信員		秋山義一	三道街
釀造業		江副萬吉	二道街
理髮業		河野樂治	仝
仝		白石茂七	仝
仝		岡部芳太郎	仝
旅館	日本ホテル	河野サト	仝
藥種賣藥商	井上大藥房	井上折平支店 主任池田平之助	三道街
仝	旭昇號支店	主任　藤井健五	仝
軍人		富永恭次	仝
質屋業		久保値市	仝
大工職		中川金三郎	仝
質屋業		福島力雄	四道街
藥種賣藥商	協進洋行	志水語	仝
雜貨商		加島甲子太郎	仝
質屋業		地田平八郎	仝

雜貨商	地田商店	池田平八郎	四道街
菓子商	福助堂	橋口清次郎	五道街
料理旅館	大正館	柿久重一郎	仝
料理	福來樓	橋田ウノ	仝
入齒師		塩澤安平	仝
雜貨商	朝日洋行	島崎兼男	仝
布教師		山本平太郎	仝
料理	金春樓	高濱文市	仝
仝	福壽樓	川原フジノ	仝
仝	春日樓	池田スエノ	仝
倶樂部	(東洋)	友納喜六	仝
料理	朝日樓	島崎フジ	仝
飲食店		岩永寅藏	仝
料理	德榮樓	鐵本トク	仝
醫師	小出醫院	小出尙	仝

第二項　支那側商工業者表

營業種類	屋號	資本金	執事人	所在地
當舖(質屋)	興盛昌	大洋一〇、〇〇〇元	趙增玷	大街
〃	榮茂當	一〇、〇〇〇	呂鳳岐	四道街
〃	同仁當	一〇、〇〇〇	陳文濤	〃
布疋雜貨	洪興和	五、〇〇〇	滕麟德	〃
〃	榮興德	四、〇〇〇	孫成德	〃
〃	榮茂盛	一五、〇〇〇	呂鳳岐	〃
〃	東興永	五、〇〇〇	李文明	〃
〃	復合成	三、〇〇〇	鮑耕甫	〃
〃	恒盛永	一二、〇〇〇	李書五	大街
〃	隆泰號	一五、〇〇〇	遲献臣	〃
〃	恒裕號	三、〇〇〇	王石臣	〃
〃	福海長	三、〇〇〇	于豫生	〃
〃	聚義長	二、〇〇〇	李芳春	三道街

布疋雜貨	天泰永	大洋一、三〇〇元	李廣太	三道街
〃	復生祥	二、〇〇〇	任子英	〃
〃	仁和襲	二、〇〇〇	襲鶴亭	〃
〃	隆聚興	三、〇〇〇	田茂林	〃
〃	永發和	四、〇〇〇	鄭文一	〃
〃	吉順福	二、〇〇〇	李字祥	大街
〃	鴻昇泰	四、〇〇〇	孫功臣	〃
〃	義聚德	二、〇〇〇	張治文	〃
〃	源泰盛	二、二〇〇	陸任甫	四道街
〃	洪發盛	五、〇〇〇	孫博文	〃
〃	福昌恒	二、〇〇〇	劉寶學	〃
〃	福順泰	一、七〇〇	李起霆	〃
〃	同盛永	三、〇〇〇	王言伸	〃
錢業	久安銀號	三、〇〇〇	趙星一	大街
〃	東盛銀號	四、〇〇〇	鮑松甫	〃

錢業	東興昌	大洋	三、〇〇〇
醬園	利通醬園		二、〇〇〇
仝	恒泰居		一、二〇〇
雜貨	同順昌		三、〇〇〇
仝	萬豐義		一、五〇〇
仝	恒達		二、〇〇〇
磁鐵	雙盛泰		一、五〇〇
藥業	興順公		一、二〇〇

沈景文	大街		七二〇
郭寶山	四道街		
趙恭壽	仝		
霍仲餘	新市場		
孫文英	仝		
陶中三	二道街		
李東山	大街		
杜興盛	四道街		

第三項　露人商店

雜貨	ウオロビエフ	シキンスカヤ街	
靴、鞄	アムール商會	大街	
百貨店	秋林洋行	仝	
織物類	プログレス	仝	
仝	ヴイゴダ	仝	
靴鞄	ウスベルサド	大街	
藥舗	ニキチンスカヤ	仝	
旅館	ニキチンホテル	仝	
蒙古貿易及皮革場	カタエフ	三道街	
蒙古貿易及印刷所	サベルキン	頭道街	

第三款　商務會及漁業公會

滿洲里商會

設立	民國元年
會長	趙晏亭
會董(役員)	二十六名
會員數	三百五十名
役員任期	二ヶ年
改選期	十月
會費	六級に分ち月額大洋三元五角より五角まで。

滿洲里漁業公會

設　立　民國十四年十一月

會　長　候　輯　五

副會長　吉　順　德

會員數　十二名

會　費　一網に付大洋二元

第四款　商　品

當地に輸入せるゝ商品の品名と數量とは別表東支鐵道の輸送數量表に依つて概略を窺ひ知る事を得るが、今各商店の店頭に陳列されてある重なる商品を各國別にすれば大体次の如くである。

品種別	日本品	支那品	米國品	獨乙品	佛國品	英國品	伊太利品	其他
綿織物類	七〇%	二〇%	五%	一〇%	一%	五%	一%	一%
毛織物類	一	一	一	一	一	一	一	一
絹織物及綢緞	三五	五〇	小量	一	一	一	一	一
莫大小製品	六〇	三〇	五	一	一	六〇	三五	五
陶磁器類	二〇	七〇	一	一〇	一	一	一	一
雜貨玩具類	八〇	一〇	一	一〇	一	一	一	一
化粧品石鹼其他小間物類	四〇	三〇	一〇	四〇	一	一	一	一
洋紙、文房具類	六五	一	二五	一五	一	一	一	一
醫療機械、藥品	六〇	一	三〇	一	一	一	一	一
金物類	二〇	一〇	一	一〇	一	一	一	一
硝子製品	八〇	一〇	一五	一	一	一	一	一
珐瑯鐵器	八〇	五	三〇	一	一	一	一	一
皮革製品	五	六五	一	一	一	一	一	一
茶	小量	九五	一	一	一	一	一	一
酒類及洋酒	一	二五	小量	一	一	一	一	一
漁網	一〇〇	一	一	一	一	一	一	一

煙草。日本製品極小量、南洋兄弟煙草公司一五%、哈爾濱秋林工場三八、英美煙公司五、哈爾濱、ロバート工場三八、

尙は、大正十四年十月以來勞農露國製品の更紗類が小量輸入されつゝあるも到底舊帝政時代の製品とは比較にならない粗惡品である。

第五款　蒙古貿易

蒙古貿易の本源地としては滿洲里よりは寧ろ、海拉爾を適當とするも露人サベルキン、カタエフの如

き既に永年斯業に從事し、諸般の事情に精通し資産も亦、相當に有する有力者か居住すると、漁業家の大半は此地に在りて直接蒙古人と交易を行つて居るから對蒙貿易も可成りの額に達するのである。

而して其取引せらるゝ商品は海拉爾の項に記する處と異ならす。

第六款　密貿易

滿洲里市の北端及市外半露里の地に密貿易專業者が居る即ち之に從事せる機關四、ある外二十餘戸の商舗は此の密送者を顧客とし更に裏長家又は借部屋の無看板にて密送者のみを顧客とする尠者からずして部屋内には之に要する商品が充滿して居る。

數年前迄は數台の自動車を準備し殆んど、公然密輸品を滿載して輸送し或は馬車、橇を利用し、時には徒歩にて國境を越ゆる者も有つたが、外蒙古が獨立して後は監視嚴重となりて只騎馬で突破するを以て最上とする、騎馬と徒歩に依るものは周年絶ねざるも馬車は春秋降雨少く道路佳良の時に限り、橇は冬季積雪の折にのみ行はれ共に黄昏時より侵入するのである。徒歩者は多く、支那人、韃靼人、ブリヤート人にして身に着け得る丈けの新帽子、新衣服等を着け一布度内外の呉服反物、靴下、靴、手袋等を肩にし約十名一團となる。

騎馬組は多く露人又は土人で十名以内一團となり。上記の如き商品を約三布度半、價格にし最高千圓最底四百圓内外又、馬車、橇組は露人又は土人で、約三組一團にて約二十布度内外を普通として居る。

而して露領への密送品は綿織物類を最多とし安價の羅紗、絹製女靴下、莫大小製品、高級化粧品類、香水、帽子、靴等で、最も盛なる時期は九月より十月頃までゝある。

又後貝加爾方面よりは各種毛皮、或は地金（砂金）、時には穀類、豚毛に至るまで、携行し來るのである。

斯の如くにして滿洲里界隈の密輸送の總額一ヶ年最低（内輪に見ても）五百萬圓は下らずといふ事であるが然も國境の取締は益々嚴重であつて露支の監視兵相互が自國々境を一露里に付平均二名見當で配置し守備をして居る。監視兵が密輸送を發見すれば、商品を沒收して半分は自己の懐に着服して居る。

露領内の取締は重にゲ、ペ、ウが司り、又、マッエフスカヤ村、（國境より最も近き露領の小部落滿洲里より十四露里）其他各村落には多數の密偵が入込み注意を怠らず、又密送者或は商品の隱匿場所を發見し又は密輸送を當局者に屆け出でたる者に對しては何人も其二割は賞與の意味に於て分配され自己の所得となし得る爲め國境近き山間避地の小部落に至る迄老若男女の別なくゲ、ペ、ウの手先きになり居る爲め油斷は出來ぬが該地一帶に亘り、商品は非常に缺乏して居る故輸送すれば賣却は容易なるのみならず、莫大なる利益を收め得る爲め身命を賭して密輸に從事するのである。

販路としては一は知多市、一は恰克圖よりウエルフネウージンスク方面、一はサン街道よりミヌシンスク、クラスノヤールスク方面、一はイレクテ河に沿ふてイルクートスク方面、一は遠く亞爾泰山脈を

てバルナウール、ピースク方面、一はセミパラチンク方面等である。

又當地に於て特に目立つものは公然たる密輸出にして然も官憲に於て手の下し樣のない事である。即ち滿洲里より知多へ毎週、火、金、土の三回列車を運轉して居る、乘車賃銀は東鐵に比し雲泥の差で甚だ低廉であり、毎發車日には數十名或は百七、八十名に上る支那人の大團体が、洋服、襯衣、靴、帽子等新調品を纏へる丈多く着込み、或る者は數枚の衣服を重ね着し、見るからに滑稽にして抱腹絶倒、恰も樂天氏の漫畫夫れ以上の風体、裝飾で而も携帶品の如きは無稅通關し得る範圍に止め、公然と入露し二週間以内に、彼等は見窄らしき一介の苦力に還元して歸り來る、不絶此の方法を反覆して居る密輸送者もあるので知多、ダウリヤ、マツチエフスカヤ及其他の露領には之等を相手とする專門の商店があるといふ。

第七欵　×滿洲里驛發著貨物數量表

年別 / 貨物品名	一九一三	一九一四	一九一五	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二三	一九二四
滿洲里驛普通便扱普通貨物發送高	八二、九二二	八二、二七〇	五四六、二五	三三八、八九二	三三九、一七三	五八〇、四六六	四〇一、六一八	五七〇、五〇三
××同營業所同	—	—	—	—	—	四〇、五七七	八三、二一七	一四六、〇一七
計	八二、九二二	八二、二七〇	五四六、二五	三三八、八九二	三三九、一七三	六二一、〇四三	四八四、八三五	七二六、五二〇
內譯								
石炭	四	二、三一九	二、二四〇	二、二一九	二、二一九	一、四四二	一、一六六	二五四、七二三
肉類	六八五	二、三〇七	一八、七一三	二、一四八五	一、四八七	五、四一〇	二、二七一	四、六八一
魚類	八〇三	一、四六七	二、二四〇	一、四七三	二、一〇六	一、一七二	一、三五五	一三〇
羊毛	四、四一〇	三、九五六	三二、九六八	二三、六三	三二、九七八	三二、一二二	二、一〇二、一二五	一三
皮革及生皮	四、二九〇	六〇五	七、六九七	二五、五六九	二、二一九	二三、九九四	二、一〇七、一二五	一、一三六
穀物	一五、三九四	四六、五七六	一六、四八四	二二、一一九	一三、九九四	八、二四三	二、一〇七、一二五	七四〇、六一四
毛皮	八二二	三一〇	六、一二四	一二、三四四	一三、〇七五	二四、一二三	一〇一、一七五	八四、五九八
建築材	—	一二八	五二五	—	—	五、五六二	五、六〇六	一、五七六
食料雜貨及茶	八、六七八	六六四	四、六九一	四五、一九三	一〇、一七六	五、一一八	四三一	一三四
家畜發送高	五二二	一、九六一	六、八三	八、六八一	三、四二〇			
其中								
牛	一四四	八五二	五、四七九	二、五二七	一、八一六	三、一三六	一三	一
羊綿羊	—	九六〇	一、一七二	五、〇三〇	一、三三五	七八〇	一三〇	—
馬	三二三	一三八	一六四	一、一一〇	二九八	一、一九七	二九五	一三三
仔馬								
滿洲里驛普通便扱普通貨物到着高	二、三二八、三二四	二、五四八、六七〇	二、〇五〇、一八二	四、六四〇、三九二	三、三五五、〇二二	三、〇一六、五四〇	八七一、五六八	七四〇、六一四
××同營業所同	—	—	—	—	—	二、四八二、九六八	六〇四、四〇六	八四、五九八
計	二、三二八、三二四	二、五四八、六七〇	二、〇五〇、一八二	四、六四〇、三九二	三、三九五、〇二二	五、四九九、五〇八	一、四七五、九六四	八二五、五一七
內譯								
穀物	三五八、一四六	四二九、一二二	三二五、七九	二、三二二、九二二	一、五九四、九一六	三、七六三、五三七	七〇〇、七五四	三二七、六一四

石炭	一、一〇〇、一三八	一九五、七七五	二七六、七六〇	九六一、二九二	二三五、八六三	四二三、三三〇	一八三、一八四	二〇九、九九四
建築材	七、二七三	四、三二〇	二七、八八八	三三、一七七	七七、七八一	一三、〇六八	一三、〇三六	一三、一六五
薪	五、四二〇	二、一八〇	四一、一九〇	三五九、四二一	四六〇、五七四	五八、一九四	二、六五〇	—
乾草及藁	六八、六四八	一四、三三七	六六、二三三	三八四、七八九	一七四、四二八	一〇三、〇四七	九〇、一五六	九八、七三三
茶	一四九、五八一	二〇七、二〇八	一三八、九二六	九、五八八	一〇二、五〇八	一一〇、一四六	一一、一二八	七四、六二二
工場製品	二四、八五九	二三九、九八一	一九、六三三	二〇、一一五	九〇、四六四	一三、〇六七	七、七〇九	一、七七〇
砂糖、ザラメ	二四七、二二〇	二五七、八八三	三九、〇二七	四〇、六四五	八八、二二六	一五九、八五一	一〇五、三四六	一七、五〇五
野菜類	二〇、八〇〇	五七、五二〇	六四、〇八二	五〇、〇七三	七五、八〇一	九四、三一七	一八、五三三	一九、〇二五
種子油	六、三〇〇	七、五二六	九、六〇六	二三、八四〇	六二、〇四九	八五、九四三	五九、二〇〇	一九、〇三七
肉類	四、五三三	二、二〇九	一、四八二	四八、九〇六	二〇、九〇三	八、一二八	四、六〇一	二、八八七
獸脂類	三八七	八八一	五九七	二一、九六五	一六、四六三	三六、三九九	二四、〇二六	二六、三六六
酒精	一五、八六七	一八、〇六四	四一、二五二	一八、九六一	一四、三四七	三六、四一九	一九、六〇六	一四、六七六
火酒類	九、六三九	九、七八八	一三、〇〇四	一四、四七〇	一一、五九二	一、四二九	六八二	九一二
礦油	一〇、六三七	一三、九九一	七、六三九	一〇、二八九	一〇、九四五	一〇、六一四	五、三二五	二、八八八
煙草及其製品	一一、二〇七	一〇、三五八	一〇、四五五	二、二六二	三六、一九四	三五、一五六	一五、八〇五	一四、〇四八
魚類	三、八〇三	二二、二三八	一八、八二一	一、三〇五	五、九六八	六、五三六	七、四三五	一、二八九
米	一〇、三三七	一三、一五二	一三、七六七	一、二四九	一〇、〇六六	一〇、四一六	一、八七七	四四五
鐵製品	七、六〇四	八、一一四	一〇、八一三	一、七三六	三三、三三五	二六、一四七	一四、二六七	五、四四三
鐵原料	四、八四三	六、四九五	六、一〇七	六、二七〇	二五、四一五	六、五〇三	二、七一一	三、六五〇
家畜到着高	六四三	二四三	一四二	九四五	九七五	一、一八四	一、六一九	七六四
其中 豚	五二	三九	—	七六〇	九五〇	一、一一五	一、六〇五	七六〇

×、滿洲里より以西に向ひたる無走行貨物、及後貝加爾より滿洲里に到着せる貨物を除く

××、滿洲里運輸營業所は一九二二年開設

第十節 漁業（詳細は哈調資料一五、六、北滿に於ける漁業參照）

第一款 概説

呼倫貝爾の漁業はタルバン獵と共に滿洲里、海拉爾市場の經濟界に重大な意義を有するのである。呼倫湖を蒙古語で達賴諾爾（大海の意）と云ひ一名枯倫泊又は庫楞湖、潤欒海子とも稱す。

該湖は滿洲里より四拾露里を距り東南貝爾湖より分流する鄂爾順河、及西肯特山より發する克魯倫河を納れ、北岸の湖口より流出して額爾訥河となり、黑龍江に會して居る、西南より東北に長き楕圓形の湖で幅員四拾露里長さ八拾露里深さ五サーゼンある。次に貝爾湖と稱するは布爾池とも書き又布育里諾爾とも謂ひ、古名は、捕魚兒海とも云ふて、呼倫湖の南方約百三拾露里内外蒙古の境界線上に瓜瓠の如く長徑三拾六露里短徑拾七露里で大さは、呼倫湖の次位を保ち、索岳爾滑山の西北より流れ來る喀爾喀河を呑み次で呼倫湖に注ぎ夫れより烏爾順河に吐き出して居るのである。

現在の漁場は烏爾順河の流域百三拾露里間を最多とし、呼倫湖には西岸に拾三個所があり。全漁場數は四拾餘個所である、呼倫湖の漁業は大正三年に露人バシマーキンが呼倫貝爾副都統勝福の許可を得て二個所の漁區を開きたるを嚆矢とする。魚族の豐富なる事無盡藏の稱があり、今後拾數年繼續撈獲するも猶獲り盡さざるを立證し得る程の驚くべき豐魚狀態である。種別は鯉、鮒、狗魚（シチユーカ）其の他の雜魚で例年の漁獲高は其漁場數に依りて非常なる差を生ずるが、一九二四年は三拾萬布度（金額約五拾二萬八千圓）であつた。然るに歐洲戰に次で露國內亂の爲め其の販路先たる露國への輸送は杜絶し自然漁場の閉鎖を餘儀なくせしめられたが、近來南北滿洲への新販路が開拓されて以來廣汎なる需要を生じ急激に再興したる觀があり、將來の發展益々多々の感がある。

貝爾湖は前述の通り位置僻遠にして只湖畔附近の游牧民たる小數の巴爾呼人が至極簡單なる方法で撈獲して居る外は今だに漁場開設を見ざる處女湖である。同湖は實は天然の養魚池て、春期產卵期に至れば解氷濁水と共に魚羣密集して烏爾順河より呼倫湖へ游下する光景は四圍の情景に照して雄大壯絶の觀禁じ得ざるものあると云ふ。

同湖の魚類豐富なる事亦呼倫湖以上で該漁業の有利有望なるを知りし露人漁業家は漁獲獨專權を獲得せんとて庫倫蒙古政廳へ交渉を開始せる者も有る由である。

第二款　漁　期

漁期は夏季五月上旬より拾月中旬に至るまでを一期とし冬季は拾一月より翌年三月に至る迄を二期とす。

第三款　漁撈獲方法

冬季は二日間に一回の割合を以て堅氷に穴を穿ちて凍網の法に依る、但し解氷結氷の遲速に因り多少の相違がある。夏季に於ける漁法は本邦東海岸に行はるゝ地曳を用ひ長さ四百五拾尋乃至五百尋、幅五尋內外を有し、漁獲は一日五回又は六回之れを行ふ漁船は主に本邦型で長さ五間巾七尺位のもの二雙を用ひ、他に捕獲具運搬用豫備船を備ふ。

第四款　漁獲物の處理及輸送方法

漁獲魚は一定の時季に生魚のまゝ滿洲里市場に出すもの、或は乾魚となし、又は生洲に蓄へ冬季市場に搬出する、生魚を市場に搬出するは夏季土用過迄とし、土用明後は魚類大部分を生洲に放養し夏季市場に搬出せざるものを以て乾魚に充つ。

蓋し滿洲里の如く小市街の需要には限り有るを以て多量販賣は不可能に屬し、又生洲に放養するも夏季は自然に斃死するもの多き爲め寧ろ乾魚に製するを可とする樣である。

漁場より生魚のまゝで市場に搬出するものは夏季露國式四輪荷馬車に車台大箱を造りて水を入れ之に放養し夜間に運搬する。冬季は漁場に於て凍魚となし柳條籠（約五拾貫入）に入れアンペラにて周圍を